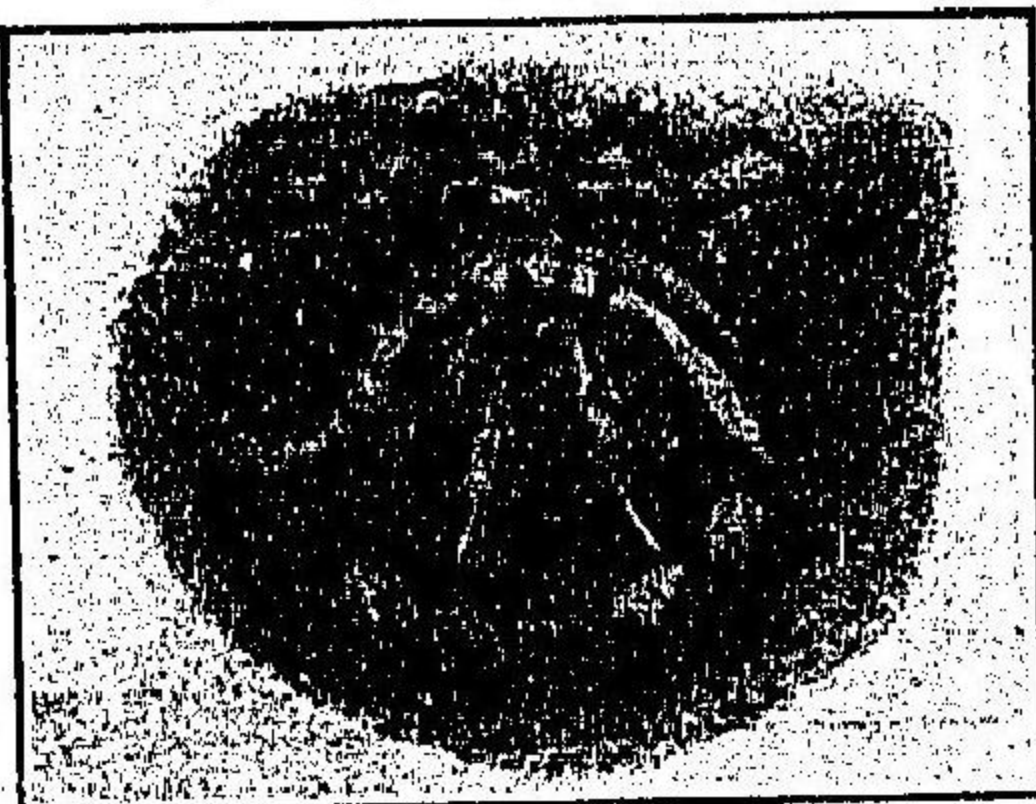


粘、膜、乳、白、斑、ハ、梅毒ニ固有ノ徵候ニシテ、梅毒性加答兒ニ併發シ、發赤セル粘、膜、面ニ扁豆大乃至蠶豆大ノ乳白色斑點ヲ生ズ、好發部ハ聲帶、會厭軟骨、披裂、會厭皺襞等ニシテ、其形態不定ナリ

圖五十二百第

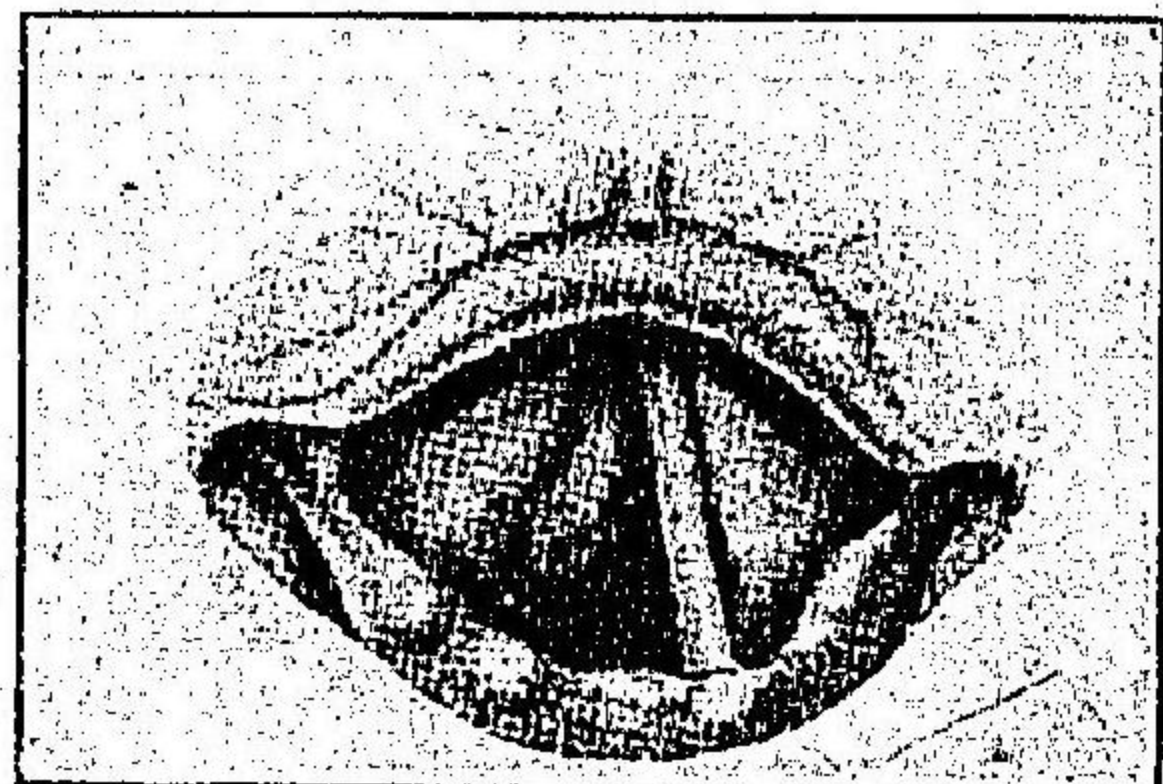
節結腫ムコ小性發多



第三、期、梅毒ハ、護、謨、腫トシテ、發現スルモノニシテ、感染後五年乃至十年ニシテ來ル而シテ、多クハ、大小種々ナル類圓若クハ、長形結節或ハ、紡錘隆起、聲帶ニ於ケル如ク、時トシテハ、又、肥厚ヲ呈シ、暗赤色ニシテ、硬固ナリ、又、周圍ノ粘、膜ハ、著シク發赤腫脹ス、結節ハ、多クハ、一個孤生スレドモ、又、同時ニ、數多簇生スルコトアリテ、喉

圖五十二百第

潤浸性腫脹性護謨

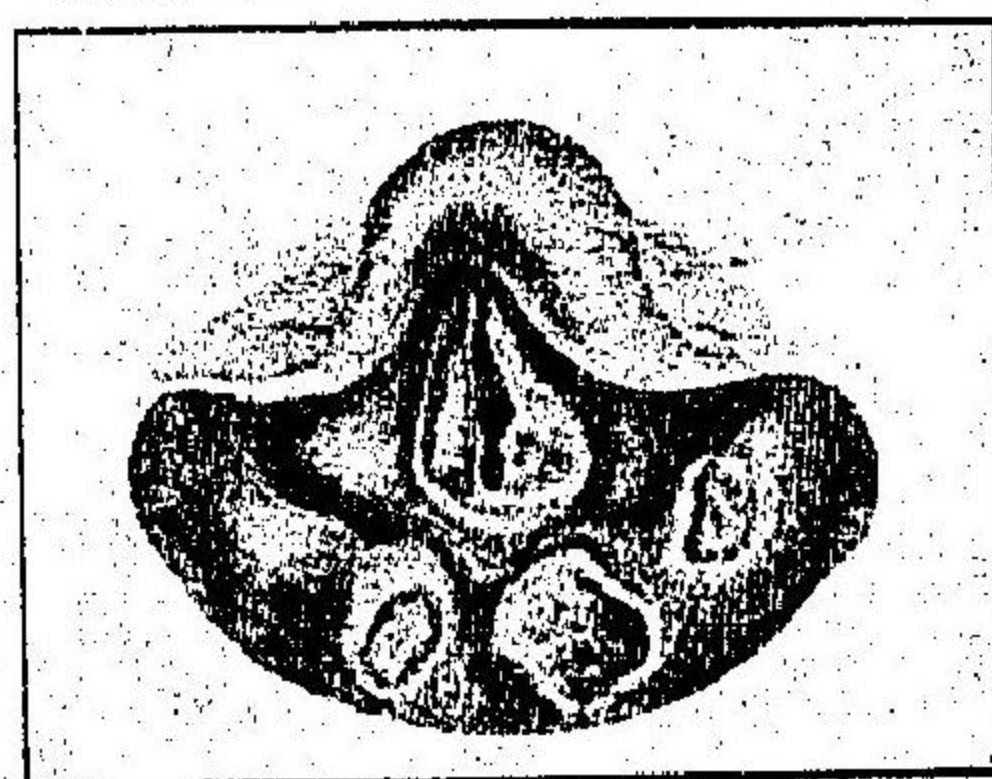


内隨所發生シ得ベシ、然レドモ、會厭軟骨ノ前面或ハ、遊離緣ニ最モ多シ、又、護、謨、腫、浸、潤ト稱スルモノアリ、即チ、或ハ、類圓形一大腫瘍トシテ、或ハ、稍ヤ不平等ナル隆起若クハ、擴延セル腫脹ヲ以テ、特ニ、好ンデ、會厭軟骨ヲ侵スモノナリ、重症ノモノハ、殆ンド、喉頭半部ニ互リ、尙ホ、進ンデ、筋及ビ、軟骨部ヲモ、侵襲ス、又、喉頭下腔或ハ、聲帶下面ノ護謨性浸潤ハ、往々、見ル處ナリ、此ノ如キモノハ、聲帶下喉頭炎ノ状態ヲ呈シ、危險ノ呼吸困難ヲ來スコトアリ、護、謨、腫ハ、其存在期間極メテ、短キモノニシテ、容易ニ、破壊シテ、潰瘍ヲ形成ス、故ニ、吾人ハ、破壊セザル護謨腫ヲ見ルハ、比較的、多カラザルモノトス、潰瘍ハ、其大サ種々アリテ、一様ナラズ、通常、深ク、邊緣銳利ニシテ、其狀恰モ、鑿掘若クハ、齧切セラレタルガ如シ、底面ハ、豚脂様頹敗物ヲ以テ、蔽ハル而シテ、潰瘍ハ、一方、侵蝕性ナルニ、反シ、他方ニハ、癒痕形成ノ下ニ、治癒スルノ傾向ヲ有ス、其癒痕ハ、放線狀ニシテ、臍様光澤ヲ放チ、顯著ノ索繩ニヨリテ、硬固緊密

ナルヲ特徴トス癭痕若シ披裂會厭襞及ビ聲帶ニ發スルトキハ喉頭傾斜シ又ハ聲門狹窄症狀ヲ呈ス又環狀軟骨及披裂軟骨部ノ壞死若クハ癭痕收縮ヲ來ストキハ聲帶運動障害セラレテ窒息ヲ來ス又會厭軟骨ノ崩壞又ハ他部トノ癭痕癒

第百二十六圖

聲帶及披裂會厭軟骨之腫脹性潰瘍



着アルトキハ嚥下障害ヲ來スモノナリ
自覺症候ハ第二期梅毒ノ加答兒症狀ヲ行スルモノハ通常聲音嘶啞ヲ主徵トス護謨腫ヲ生ジタルモノモ亦僅カニ嘔聲ヲ有スルニ過ギザルコトアリト雖トモ聲帶及ビ其近圍ニ於ケルトキハ高度ニシテ時トシテハ失聲症ニ陥ルモノアリ嚥下困難ハ喉頭入口部ノ病變ニ現ハル殊ニ潰瘍及ビ軟骨膜炎ヲ有スルモノニ於テ現著ナリ時トシテハ疼痛耳ニ放散ス其他崩壞シタルモノハ不潔ノ膿性分泌物若クハ混血膿汁ヲ咯出シ呼氣ニ惡臭ヲ帶ブ

診斷 梅毒性紅斑ハ單純喉頭加答兒ト鑑別困難ナリト雖モ其他ハ通常既往症及ビ全身ノ梅毒症狀并ニ喉頭鏡検査ニヨリテ容易ナリ只第三期梅毒ハ結核

及ビ癭腫ト鑑別ヲ要スルモノナリ沃度劑ヲ試用シ奏効ノ存否ニ由リテ之ヲ判別スルヲ得ベク或ハ後章鑑別表(三八四頁)ヲ參照スレバ大抵誤リナカルベシ

豫後 通常佳良ナリ然レモ少シク治療ノ遲延シタルモノ或ハ癒着症アルモノハ聲音異常等ヲ貼ス稀レニハ環狀軟骨膜炎等ノ爲メニ危險ニ陥ルコトアリ

療法 一般驅梅毒法ヲ嚴重ニ施行スベシ(鼻咽頭梅毒ノ項參照沃度加里ハ本症ニ缺ク可カラザル藥品ナリト雖トモ往々沃度浮腫ヲ起シテ呼吸困難増劇スルコトアルガユヘニ注意スベク若シ浮腫ヲ發スレバ直チニ内服ヲ止ムベシ又「ヨ

チピン」ノ内服注射モ効アリト云フ局所療法ハ幾ンド全身驅梅毒法ノ補佐ニ過ギズ吸入(〇〇五)昇汞水、格魯兒加里、加答兒症ニハ硝酸銀水塗布、潰瘍ニ對シテハマンドル氏沃度液、プロタルゴール液塗布或ハ沃度兒「デルマトール」アリストール等ノ吹入ヲ稱用ス粘膜炎ハ硝酸銀二―五%格魯謨酸腐蝕ニヨリテ速ニ治癒スルモノナリ

癭痕狹窄ニハシユレット氏硬護謨管ヲ挿入シテ擴張ヲ謀リ窒息狀態ニハ氣管切開術ヲ施ス

處方

1 「メヂル」 10.0
 鹽 水 100.0
 右一日二—三回一茶匙牛乳ニ混シ内服

2 撒酸水銀 1.0
 甘草 煮 各適宜
 甘草末
 右六十九トナシ食後一乃至二丸ヲ服用ス

3 「ヨサピン」 二五〇

鹽 水 100.0
 右注射料
 每日一回宛腎部ニ注射ス

4 昇 汞 0.1
 食 鹽 1.0
 蒸餾水 100.0
 右注射料
 一回一箇腎部筋肉内注射

喉頭癩 *Lepia laryngis.*

通常他部ノ癩ト合併ス初期ハ加答兒期ニシテ粘膜ノ發赤腫脹鬆疎、分泌亢進ヲ來シ次テ光澤消失假漆狀トナリテ乾燥ス、而シテ漸次浸潤期ニ移リ限局性或ハ廣汎性癩結節ヲ生ズ時トシテハ崩壞シテ潰瘍トナル

症候

瘡痒感、嘔聲及ビ狹窄症ニシテ疼痛ハ缺如ス

喉頭鏡検査所見

好發部ハ喉頭入口、會厭軟骨、破裂會厭襞、舌會厭靱帶、舌扁桃腺

等ニシテ皺襞ハ浸潤ニヨリテ索狀或ハ珠數狀ニ肥厚シ會厭軟骨及ビ披裂軟骨部ニ於テハ扁豆大乃至豌豆大ノ結節或ハ乳嘴腫狀腫起ヲ見ルモノナリ而シテ周圍ノ粘膜ハ潮紅スレモ結節ハ白色ヲ呈ス聲帶及ビ聲帶下腔ニ病變アルトキハ呼吸困難著シク浸潤部及ビ結節破壞スルトキハ軟骨ニ達スル潮蔓性潰瘍ヲ生ズ潰瘍ハ或ハ治癒ノ傾向ヲ生ジ或ハ軟骨膜炎ヲ誘起スルモノナリ

診斷

他部ノ癩症狀並ニ癩菌ノ證明ニヨリテ明カナリ

經過及豫後

緩慢ニシテ不良ナリ屢々喉頭狹窄ヲ起シテ窒息シ或ハ虛脱ニヨリテ斃ル

療法

一般癩療法ニ從フ又局所療法トシテハ狹窄ノ擴張、窒息ノ危險ニ向ツテハ氣管切開術ヲ施行スベシ

喉頭狼瘡 *Lupus laryngis.*

多クハ續發性ニシテ原發性ハ稀ナリ

症候

本症ハ少壯婦人ニ多ク屢々自覺症ナクシテ經過ス又僅カニ嘔聲ヲ來

シ或ハ稀レニ嚥下障害ヲ起ス
好發部位ハ假聲帶、聲帶後壁及ビ披裂會厭襞ニシテ初期ハ粘膜ノ表面不規則ノ陷凹或ハ隆起ヲ呈シ蒼白色或ハ發赤ヲ認ム次期ハ浸潤及ビ小結節ヲ生ジ特有ノ蒼白色トナリ終ニ潰瘍期ニ移行スルモノナリ潰瘍ハ遲鈍性ニ蔓延シ軟骨モ亦續テ破壊セラレ瘢痕ヲ以テ終ル又瘢痕ヲ形成セズシテ結節ノ消失スルコトアリト云フ(ミギンド氏)

診斷 通常他部ノ痕瘡ヲ有スルヲ以テ知ルベシ結核梅毒癌腫等トノ鑑別ハ

後章鑑別表(三八四頁)ニ據ルベシ

經過及豫後 極メテ慢性ニシテ概シテ不良ナリ然レトモ亦治療ニヨリ或

ハ自然ニ治スルコトナキニ非ズ

療法 全身強壯療法ヲ行ヒ局所ニハ乳酸塗布「キユレット」術、電氣燒灼等ヲ應

用シ呼吸困難アルトキハ挿管術或ハ氣管切開術ヲ施スベシ其他一般對症療法ヲ要ス

第四章 喉頭ノ腫瘍 (Geschwülste des Kehlkopfes)

Kehlkopfes.

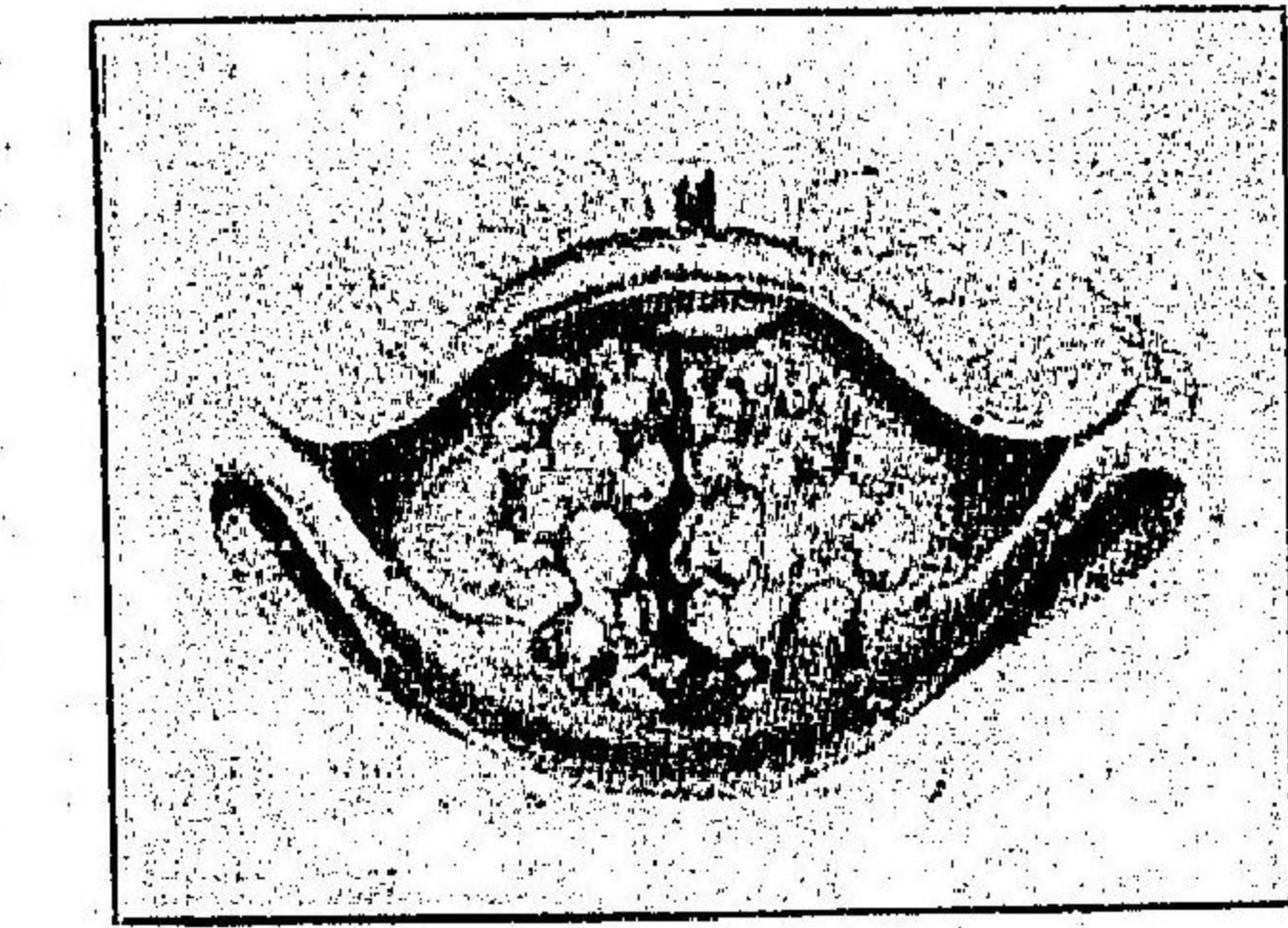
喉頭良性腫瘍 Gutartige Geschwülste des

Kehlkopfes.

原因 喉頭良性腫瘍ノ原因ハ明瞭ナラズ時トシテハ先天性或ハ遺傳性ニ發スルコトアリ又急性及慢性喉頭炎ニヨリテ來ル或ハ職業上ノ關係殊ニ發聲濫用又ハ聲音ノ不適當ナル使用ハ其發生ヲ援クルヲ得ベシ

A 乳嘴腫 良性腫瘍中最多數ヲ占ムルモノニシテ男性ニ多ク四十歳以上ノ者ニハ少ナシ小兒期ニ於テハ比較的多ク見ルモノナリ好發部位ハ聲帶殊ニ前三分ノ一部ニ最モ多ク假聲帶之ニ次グ單一ナルアリ多發スルアリ有莖ナルアリ或ハ基底廣汎性ナルアリ大小亦不同ニシテ罌粟大麻實大ヨリ扁豆大若クハ胡桃大ニ達シ大ナルハ通常表面凸凹不平疣贅狀、鷄冠狀又ハ莓實狀ニシテ灰白色淡紅色若クハ暗赤色ヲ呈ス小兒ニ在リテハ花椰菜狀ニシテ間々分葉狀ナル大乳嘴腫ヲ見ルコトアリ

B 纖維腫 多クハ單發シ稀ニ多發ス好發部ハ聲帶遊離線殊ニ前三分一又ハ中部ニシテ後部ニ發スルコト稀ナリ大サ粟粒大ヨリ胡桃大ニ至ル灰白色或ハ紅色若クハ暗紅色ノ圓錐形又ハ半圓形腫瘍ニシテ廣基性又ハ有莖性ナリ硬度ハ柔軟ナルアリ又硬固ナルアリ(前章記載ノ謠人結節ハ時トシテ此種ニ屬スル小新生物ナリ)



第百二十七圖
多發性乳嚢腫

C 囊腫 會厭軟骨前面ニ發スルコト多ク又モルガン氏竇破裂或ハ聲帶ニモ發ス通常圓形又卵圓形ノ麻實大ヨリ胡桃大ニ至ル水泡狀波動性ノ腫瘍ニシテ表面滑澤黃色或ハ灰白色粘稠ノ内容ヲ含有ス

D 血管腫、腺腫、脂肪腫、軟骨腫、粘液腫 等ナリ

症候 腫瘍ノ發生部位及ビ廣表ニ從テ異ナリ
聲音變化 腫瘍ノ過半ハ聲帶ニ占居スルガ故ニ啞聲ハ殆ンド常ニ免レザルモ

ノトス而シテ輕度ナルアリ又失聲ニ至ルモノアリ
嚥下困難 會厭軟骨喉頭入口部或ハ破裂軟骨後方及ビ其近附ニ於ケル大ナル腫瘍ニ來ル

呼吸困難 通常著シカラズ時トシテ窒息ヲ起スコトアリ殊ニ小兒ノ乳嚢腫ニアリテ見ル處ナリ又有莖腫瘍ノ偶然聲門ニ籍入スルニヨリテ來ル其他腫瘍ノ刺戟ニヨリテ聲門痙攣ヲ起スコトアリ

咳嗽 通常稀ナリ只異物感ヲ制シ又分泌物ヲ除去センガ爲メニ常ニ聲咳ヲ發ス
疼痛 ナシ

診斷 喉頭鏡検査ニヨリテ腫瘍ノ形態部位及ビ其種類ヲ診定スルコトヲ得ベシト雖モ尙ホ其本性ヲ確定セント欲セバ組織検査ヲ行フベシ小兒ニ在リテ久シク啞聲アリ且ツ呼吸困難ナルトキハ乳嚢腫ニ疑フ措クベキモノトス

經過及豫後 緩慢ニシテ豫後ハ生命ニ關シテハ通常佳良ナリト雖モ聲音ヲ以テ職業トスルモノ例之バ俳優謠吟家等ハ損害ヲ蒙ルコト少ナカラズ爲メ

ニ轉業ノ止ムヲ得ザルコトナキニ非ズ又乳嘴腫ハ發育迅速ニシテ動モスレバ
窒息ノ危険ヲ來スコトアリ加之往々良性腫瘍モ惡性新生物ニ移行スルコトア

リ
療法 喉内手術ヲ行フベシ器械ハ針子、寒熱蹄係、小刀、燒灼電氣等ヲ用ヒ其他

小腫瘍ニアリテハ腐蝕法ヲ行フベシ(謠人結節參照)
多發性乳嘴腫ハ手術甚ダ困難ナルノミナラズ再發シ易シ此ノ如キモノニハ永
時挿管術ヲ行ヒ又氣管切開口ヨリ呼吸セシムルヲ要ス喉内手術ニ際シ或ハ術
後不快ナル偶發症ヲ來スコトアリ最モ不良ナルハ出血ニシテ殊ニ乳嘴腫或ハ
血管腫ニアリテハ強劇ニシテ往々窒息スルコトアリ其他時トシテ副損傷ヲ來
シ或ハ切除片ノ氣管内ニ陥入シ或ハ嚥下スルコトアリト雖モ大害ナシ要スル
ニ術者ノ注意ト熟練トヲ以テセバ之ヲ防グヲ得ベキモノトス腫瘍大ナルカ或
ハ出血ノ虞アルトキハ豫メ氣管切開術ヲ行ヒ外喉頭手術ヲ施ス

喉頭惡性腫瘍 Bösarartige Geschwülste

des Kehlkopfes.

喉頭惡性腫瘍ノ多數ハ癌腫ニシテ肉腫ハ遙ニ少ナシ兩者共ニ通常原發性ニシ
テ續發性ニ來ルハ稀ナリ癌腫ハ四十歳乃至七十歳ノ男性ニ多ク女性ニハ少ナ
シ而シテ上流社會ハ下級者ヨリ多シト云フ(ゲルハルト氏)

原因 良性腫瘍ヨリ變ズルコトアルハ明カナリ其他慢性刺激即チ喉頭加答
兒潰瘍、厚皮症、外傷、喫煙、飲酒、梅毒等ニ因ルト云フモ未ダ判明セズ

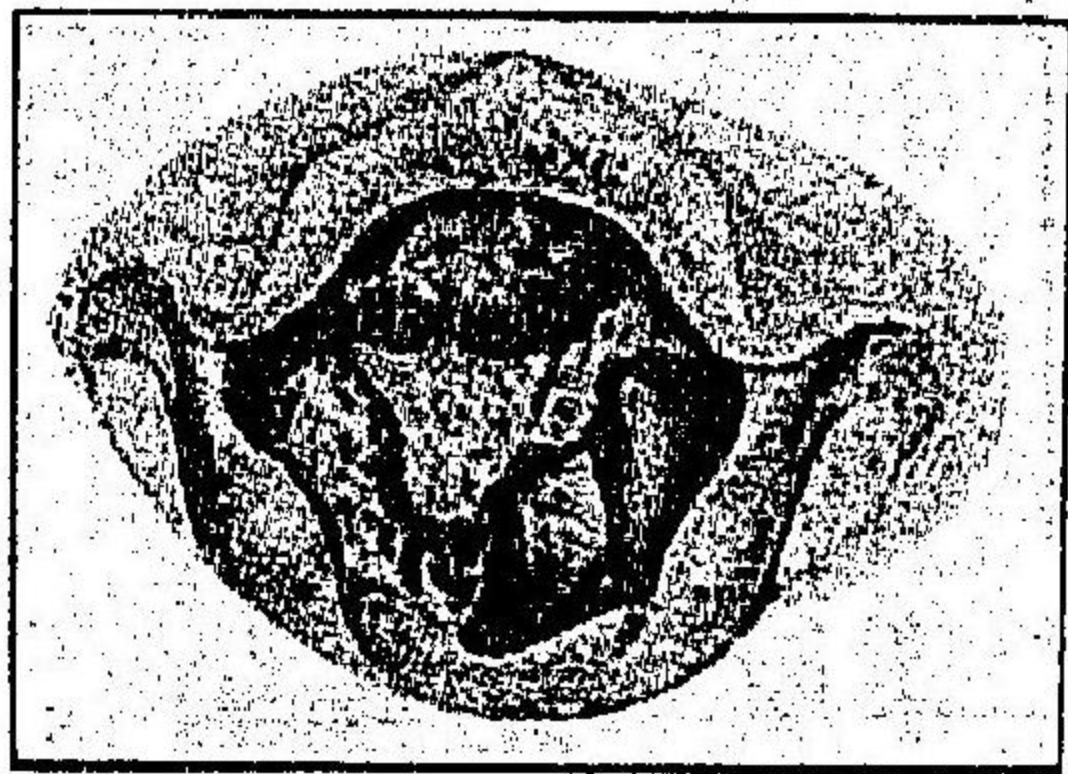
A 癌腫 Carcinom.

喉頭痛ハ比較的屢々見ル處ノ疾病ニシテ最モ多キハ上皮癌ナリ髓樣癌之ニ次
ギ硬性癌ハ最モ少シ

症候 聲音嘶啞ハ初期ニ於ケル必發ノ症候ニシテ輕度ノ疾病ニアリテモ亦
屢々現ハル、モノナリ腫瘍漸次増大スルトキハ嘶啞高度トナリ終ニ失聲トナ
ル然レドモ腫瘍若シ聲門ト遠隔セル部例之ハ披裂會厭襞ノ側面等ニ發スルト

キハ永ク嘶嘎ヲ來サハルコトアリ之レニ反シテ此ノ如キ場合ニハ疼痛殊ニ嘔下痛甚シク又外頸部及ビ耳ニ放散スル自發性疼痛ヲ起ス腫瘍猶ホ増大スルトキハ喉頭狹窄シ徐々ニ或ハ突然ニ呼吸困難ヲ起スニ至ル若シ破壊セバ出血ヲ來シ且ツ屢々膿様ノ咯痰アリテ呼吸ニ惡息アリ惡液質及淋巴腺腫ハ末期ニ來ルコト多シ

圖八十二百第
癌 頭 喉



腫纖維腫ニ類似ノ形態ヲ以テ現レ廣基性ニシテ粘膜上ニ突出スルヨリモ寧ロ深部ニ根底ヲ有シ粘膜表面ハ灰白色或ハ赤色ニシテ周圍トノ境界不明瞭ナリ

二 瀰蔓性癌腫ハ初期ニハ結核梅毒等ノ肥厚浸潤ニ酷似シ區別シ難シト雖

他覺的検査所見 癌腫ノ好發部ハ聲帶ニシテ殊ニ

其後部ニ多ク前部ニハ稀ナリ其他假聲帶會厭軟骨

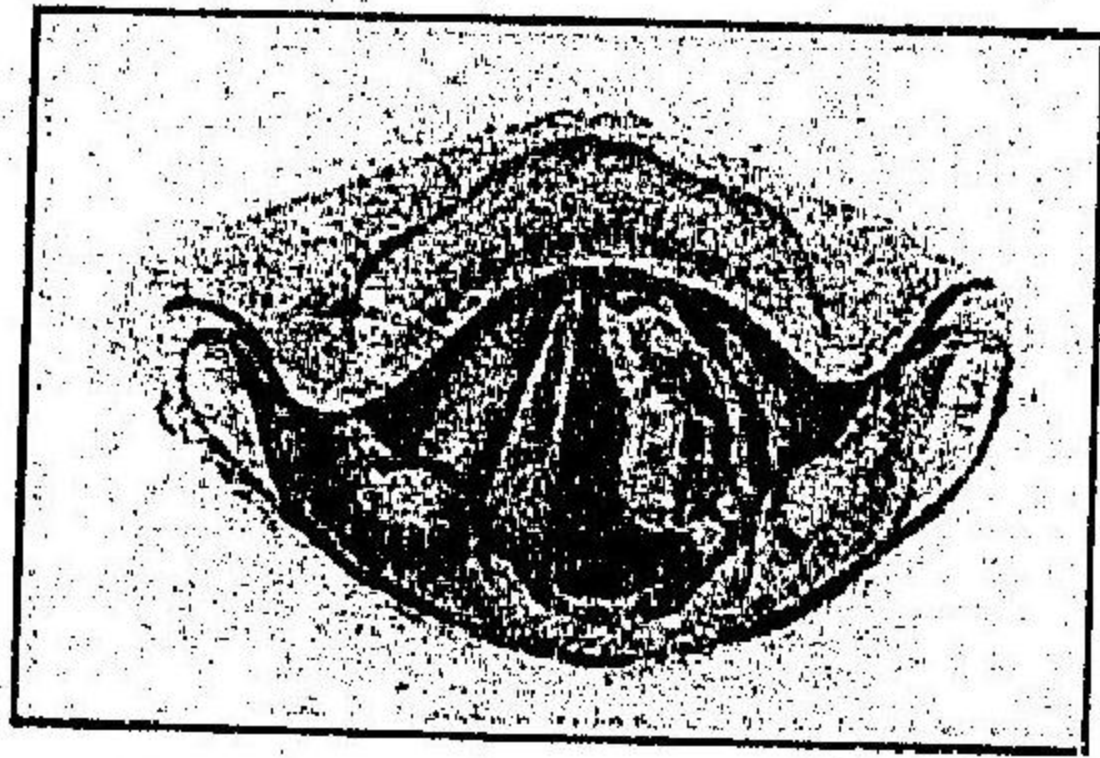
披裂會厭襞及ビ聲帶下腔等ニ發ス

初期ハ特別ノ形態ヲ現ハサハルモノアリ最モ多キ

初期症狀ハ次ノ二種ニ區別セラル

一 粘膜ハ乳嘴狀或ハ厚皮症様ニ隆起シ又乳嘴

圖九十二百第
腫 癌 帶 聲 左



モ漸次其表面凹凸不平ヲ呈ス

聲帶及假聲帶ニ於ケル癌腫ハ漸進シテ他側ニ移行スルコトアリ而シテ聲帶ハ結節狀疣贅ヲ形成シ又屢々醜花狀トナリテ著シク赤色ヲ呈ス

モルガン氏寶ヨリ發生スルモノハ假聲帶及ビ披裂會厭襞ヲ膨隆セシメ病側聲帶及ビ假聲帶ハ運動障害セラル

披裂會厭襞ニ於テハ多クハ廣莖性増殖トシテ現ハレ喉頭内及ビ梨子狀寶ニ向ツテ擴延ス

會厭軟骨侵襲セラルトキハ肥厚膨大シ醜形ヲ呈ス腫瘍ハ漸次増大シ漸進性癒着ヲ來シ深部ヲ侵蝕シテ

第二期狀態ニ移行ス即チ近圍ノ粘膜高度ノ炎症ヲ起シ發赤腫脹シ同時ニ乳嘴腫樣膨隆及軟骨膜炎ヲ起シ遂ニ第三期ニ赴キ破壊シテ潰瘍ヲ形成ス潰瘍ハ或ハ深ク或ハ廣ク蔓延シ噴火口狀ニシテ瘍緣ハ浸潤肥厚シ底面ニハ汚穢ノ壞死片ヲ附着ス

診断

初期ニ於テハ常ニ容易ナラズ高老者ニシテ病變片側ニ局在シ且ツ患側聲帶ノ運動不全ナルモノハ疑ヒヲ挾ムベキモノトス

又第二期第三期ニ於ケル癌腫モ結核梅毒梅毒等ト鑑別容易ナラザルモノナレドモ卷末鑑別表(三八四頁)ヲ参照セバ通常判定スルヲ得ベシ尙ホ確實ナルハ組織學的検査ヲ行フニアリ其他類似ノ疾病左ノ如シ

- 1 乳、嘴、腫、ハ境界著シク且ツ多發シ兩側ニ來ルコト多ク又前連合部ニ發スル等ハ癌腫ニ異ナル處ナリ
- 2 喉、頭、厚、皮、症、ハ聲帶突起部ニ於テ左右相對性ナルヲ常トス癌腫ハ之レニ反ス

經過及豫後

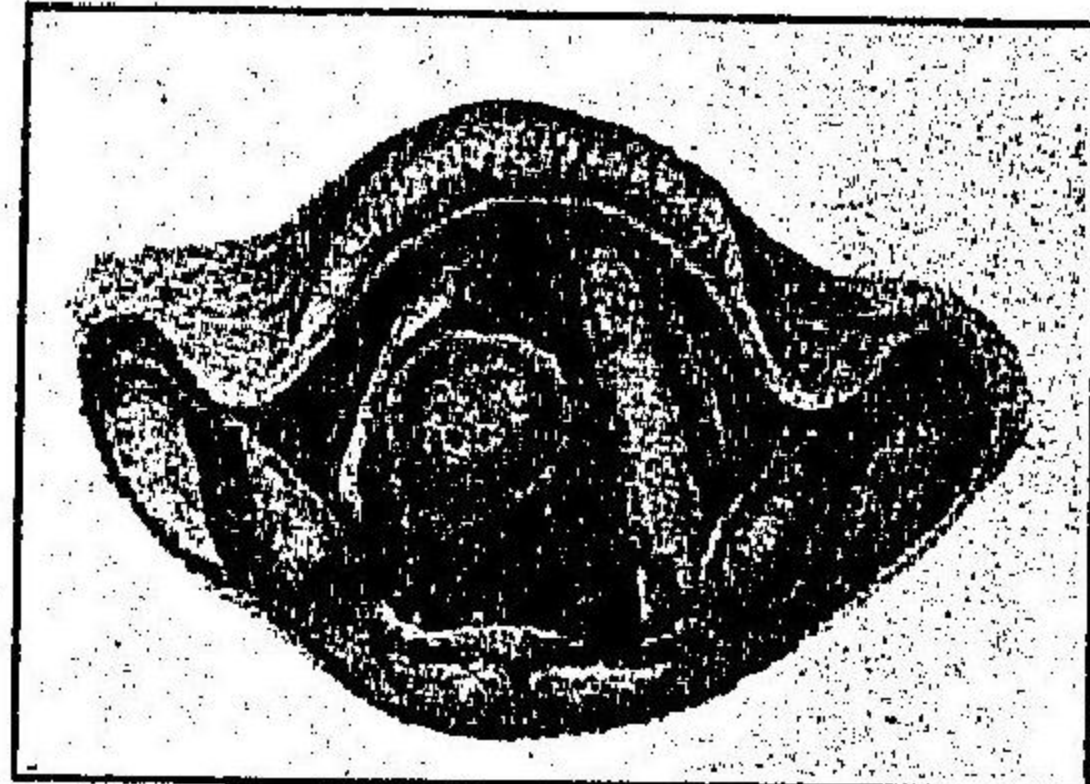
經過ハ稍ヤ速カニシテ通常長キモ三年乃至五年ニシテ窒息若クハ肺炎出血等ノ爲メニ斃ル、早期診断及ビ手術ヲ施セバ全治シ得ベキ理ナレトモ實行ノ困難ナルヲ如何セン、稍ヤ進ミタルモノハ、ヨシヤ手術ヲ行ヒ一時快癒シタルガ如キ觀アルモ多クハ再發ヲ免レザルモノトス

療法

早期喉頭内手術ハ小ニシテ限局セル腫瘍ニ行フベシ廣汎性ノモノハ

第三百十三圖

右聲帶有肉腫



喉頭外手術法即チ喉頭全摘出術ノ外ニ策ナシ、手術ヲ施ス能ハザル患者ニハ沃度劑及ビ亞硫酸ノ内服ヲ與ヒ窒息ヲ防グニハ氣管切開術ヲ施ス其他一般對症療法ヲ行フベシ

B 肉腫

Sarcom.

肉腫ハ癌腫ニ比スレバ遙カニ稀有ニシテ種類ハ多クハ圓形細胞肉腫及ビ紡錘形細胞肉腫ナリ好發部位ハ聲帶ニシテ又稀レニ假聲帶及ビ會厭軟骨ニ見ルコトアリ

症候

ハ癌腫ト略ボ同様ニシテ只疼痛缺如スルヲ常トス且ツ外觀上表面稍ヤ平滑ニシテ鮮紅色黃色或ハ白色ヲ呈シ崩壞スルハ稀レニシテ而モ淺表性ナリ且ツ肉腫ハ末期ニ至ルモ其境界明瞭ナリ

豫後

不良
癌腫ニ同ジ

咽喉潰瘍性疾疾病鑑別表 (ミギンド氏ニ據ル)

| 區別疾病 | 結核 | 狼瘡 | 梅毒 | 癌腫 |
|-----------|--------------------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|
| 兩性 | 男性(又女性) | 女性ニ多シ | 男性ニ多シ | 男性ニ多シ |
| 年 齡 | 二十一—四十歳 | 十五—二十五歳 | 三十一—三十五歳 | 四十—六十歳 |
| 既 往 症 | 肺結核(又血核) | 顔面狼瘡 | 梅毒感染 | 血族中癌腫 |
| 經 過 | 緩 慢 | 極メテ緩慢 | 迅 速 | 甚 速 |
| 嘶 啞 (喉) | 顯 著 | 無 又 微 弱 | 少 ナ シ | 著 著 (喉頭ニ限局スルモノハ不著) |
| 嚥 下 困 難 | 著 明 | ナ シ | 少 ナ シ | 著 (喉頭ニ限局スルモノハ不著) |
| 部 位 (咽) | 上 及 中 部 | 上 及 中 部 | 上 及 中 部 | 下 部 (喉部咽腔) |
| 部 位 (喉) | 披裂部、披裂間部、假聲帶、會厭軟骨後面 | 會厭軟骨後面、披裂、會厭、聲帶 | 會厭軟骨前面、或ハ縁 | 聲 帶 ニ 多 シ |
| 聲 帶 運 動 | 良 | 良 | 良 | 不 良 |
| 浸 潤 又 腫 瘍 | 若白、浮腫境界不明、多發性、周圍ハ若白若クハ赤色 | 赤色、境界明、多發性、結節、周圍若白 | 赤色、境界明、單發、周圍發赤 | 發赤、境界不明、基底廣クシテ深ク進入スル腫瘍 |
| 潰 瘍 | 多發、屢々集合、淺表、芽核腫脹、不規則、肉芽粘膜、チ有ス且ツ周圍結節アリ | 淺表性、若白、境界不明、多發性、小結節、癩痕形成 | 單獨潰瘍ニシテ大ナリ縁腫脹、鑿削狀、底面汚穢 | 單獨性、大ニシテ深ク侵蝕性ナリ底面顆粒片アリ |

第五章 喉頭浮腫 Oedema laryngis.

種々ノ疾病ニ發スル一症候ニシテ獨立的疾疾病ニ非ズト雖モ特ニ之ヲ記載スルモノアリ

原因 非炎性浮腫及ビ炎性浮腫ノ二種ニ區別ス

A 非炎性浮腫 Nichtentzündliches Oedem.

1. 沃度浮腫 沃度加里ノ内服ニヨリテ發スルハ前項既ニ述ベタル處ニシテ且ツ世人ノ普ク知ル處ナリ然レドモ其發生ニ關シテハ或ハ之ヲ特異性ニ歸シ或ハ腎臟病アリテ沃度ノ排泄不良ナルニ歸シ或ハ内服ニ由ル鼻炎結膜炎等ノ如キ炎症性浮腫ナリト云ヒ所說未ダ歸着スル處ナシ
2. 心臟病或ハ甲狀腺腫、大動脈瘤、縱隔膜腫瘍等ノ壓迫ニヨル鬱血ノ爲メニ

| 腺腫 | 沃剝効力 | 細菌 |
|----|----------|-----------|
| 僅 | ナ | 結核菌 |
| 少 | ナ | シ |
| 僅 | 有 | ハスビロリヘーグ、 |
| 少 | 著 | ナ |
| 大 | シ (僅ニアル) | コニアリ |

- 3. 腎臟炎ニ於ケル全身浮腫ノ一分症トシテ來ル
- 4. 脚氣ニ在リテ喉頭浮腫ヲ發スルコト稀ナラズ(金杉氏)
- 5. 麻刺利亞惡液質、肝臟硬化症、妊娠時等ニ發スルコトアリ

B 炎性喉頭浮腫 Entzündliches Oedem.

- 1. 喉頭及其近圍ノ炎症、潰瘍、惡性腫瘍等ニ續發ス
- 2. 急性傳染病例ヘバ室扶私、麻疹、猩紅熱、インフルエンザ、殊ニ丹毒ニ發ス其
- 他
- 3. 化學的及温熱刺激
- 4. 異物及ビ外傷
- 5. 敗血症、膿毒症等ニヨリテ發ス

症候

聲音嘶啞、呼吸困難及ビ嚥下困難ニシテ浮腫ノ程度、部位及ビ廣袤ニヨリテ異ナリ、高度ノ浮腫ハ窒息ヲ來スコトアリ、殊ニ臨床上注意スベキハ本症ハ

嚥下痛ヲ起シ耳ニ放散スレドモ咳嗽ヲ缺如スルコト多シ故ニ若シ嚥下痛ヲ訴フルモノニシテ咽頭ニ原因ト認ムベキ變化ヲ有セズ且ツ咳嗽ナキトキハ浮腫ニ疑ヒヲ挾ムヲ適當トス

喉頭検査所見 粘膜炎、蒼白水泡様或ハ淡紅色玻璃様光澤アル鈍圓球狀隆起ヲ呈シ、弾力性ニ乏シク消息子又ハ指ヲ以テ壓スルニ一時性壓痕ヲ生ズ而シテ好シク粘液膜下組織ノ鬆粗ナル部位即チ會厭軟骨ノ咽頭面、披裂會厭襞ニ發シ、假聲帶之ニ次ギ聲帶ニ來ルハ稀有ナリ

豫後 疑ハシ原因ニヨリテ差違アリ又適當ノ時期ニ治療ヲ施サレバ窒息シテ斃ル、コトアリ

療法

原因療法ヲ主要トス、沃度劑内服ニ因スルモノハ速カニ之ヲ中止スベシ

炎性浮腫ニハ氷片嚥下及ビ亂刺ヲ行ヒ其他一般消炎法ヲ講ズベシ
非炎性浮腫ニハ發汗劑、利尿劑、下劑等ヲ應用ス

豫防的早期氣管切開術ヲ施シテ窒息ヲ防ギ又插管術ヲ行ヒ急ヲ救フヲ得ベシ

第六章 喉頭異物 *Corpora aliena laryngis (Fremdkörper).*

原因 喉頭粘膜ハ知覺鋭敏ニシテ異物侵入スルモ直チニ之ヲ排除スルノ機能ヲ有スレドモ飲食時ノ談話哄笑ニ由リ或ハ嘔吐咳嗽ニ際シ食片或ハ食物ニ混ジタル竹木片、魚骨又ハ義齒等ノ誤ツテ喉内ニ侵入スルコトアリ又口内ニ合保セル釘針、草莖、豆、果實核、貨幣及ビ玩弄物ノ闖入スルコト稀ナラズ喉部知覺及ビ運動機障害アルトキハ一層容易ナリ

症候 異物ノ種類形狀、大小及ビ所在ノ部位等ニ從テ一様ナラズ

容積大ナルモノハ喉内ヲ充塞シ窒息症狀ヲ發スルモ小ナル異物ハ先ツ咳嗽ヲ發シ久時滞在スルトキハ咳嗽消失スルニ至ル尖銳ナル異物ハ嚥下時及ビ談話時ニ疼痛アリ其他聲門内ニ止マリ或ハ聲帶運動ヲ阻碍スベキ異物ハ嘶嘎ヲ來スノミナラズ呼吸困難ヲ惹起スルコトアリ

異物久シク存在スルトキハ粘膜内ニ穿入シ炎症ヲ起シ時トシテハ浮腫、膿瘍若クハ潰瘍、肉芽増殖等ヲ招來ス又タ通常頸部ノ自發性疼痛、壓痛、異物存在感ヲ有

スルモノナリ

診斷 既往症及ビ鏡檢ニヨリテ容易ナリ然レトモ小兒ニ在リテハ往々異物ノ竄入ト知ラズシテ久シク經過スルコトアリ此ノ如キモノハ多クハ粘膜ニ刺入シ炎症腫脹或ハ肉芽増生ニヨリテ異物ヲ埋没スルモノナリ加之小兒ノ喉頭檢査ハ決シテ容易ナラザルガ故ニ直達喉頭檢査或ハ指觸法ニ由リ又爾餘ノ症候ニ鑑ミテ之ヲ診定セザルベカラズ

豫後 異物ノ大小、形狀、部位ニ關スルモ概シテ佳良ナリ小ナル異物モ尖銳ナルハ危險ニシテ殊ニ小兒ニ於テハ手術困難ナルト瘰癧ニヨリテ高度ノ狹窄ヲ惹起スルコトアルガ故ニ注意スベシ

療法 摘出法ヲ試ムベシ即チ咽頭及ビ喉頭ハ古加乙涅槃局所麻醉ヲ施シ喉頭鏡應用ニヨリテ異物存在部ヲ確認シ喉頭鉗子ヲ以テ摘出シ圓形扁平ナルモノハ鈎狀或ハ匙狀器械ヲ用ヒテ廻轉運動ヲナサシメツ、摘出ス小兒ニ在リテハ摘出極メテ困難ナリ時トシテハ全身麻醉ニ倚ラザルベカラズ喉頭内手術無効ナルトキハ喉頭切開術又ハ氣管切開術ヲ行ヒ摘出スベシ

第七章 喉頭神經症 Die Neurosen des Kehlkopfes.

喉頭神經症ハ他ノ神經症ト等シク次ノ如ク區別ス

知覺鈍麻或ハ脫失

知覺過敏

知覺障害

神經痛

運動障害

痙 攣

A 知覺障害 Sensibilitätsstörungen.

知覺鈍麻或ハ脫失 Anästhesie. 神經中樞ノ器質的疾患或ハ官能的疾患

末梢神經變常例ヘバ實扶埤里後ノ麻痺、迷走神經殊ニ上喉頭神經ノ壓迫麻痺等ニ因リテ來リ人爲的ニハ莫爾比涅、古加乙涅臭剝等其他種々ノ麻醉藥ニヨリテ

發ス知覺脫失シタルモノハ粘膜ニ觸ル、モ反射的咳嗽ヲ喚起スルゴトナシ殊ニ運動性麻痺ヲ合併スルトキハ飲食物或ハ口内分泌物ハ氣管内ニ入リテ異物性肺炎ヲ惹起スルコト稀ナラズ

知覺過敏 Hyperästhesie. 喉頭粘膜ノ輕微ノ刺戟ニ對シ感受性及反射性ノ

強度ナルモノヲ云フ多クハ喉頭及咽頭炎ノ一分症ニシテ其他喫煙家、酒客、ヒステリ神經衰弱、肺結核患者等ニ來リ或ハ生齒、月經、妊娠等ノ如キ生理的機轉ニ伴フコトアリ

知覺異常 Parästhesie. 異常感覺中最モ多キハ異物箱在或ハ癢痒、灼熱、刺痛

狹窄或ハ粘液充塞等ナリ原因ノ多クハ「ヒステリ」比卜昆埤里、貧血及ビ肺結核等ナリ其他屢々鼻咽腔、口腔及ビ舌根ノ病變ニヨリテ來ル又閉經期ニ來ルコト多シ其他屢々瘤腫、梅毒、結核ヲ恐怖セルモノニ見ル處ナリ

神經痛 Neuralgie. 甲狀軟骨上角ニ於ケル上喉頭神經ノ出入部、甲狀舌骨膜

ノ穿通部又ハ遠隔ノ氣管及胸骨部ニ於ケル發作性疼痛ニシテ淋巴腺腫、神經腫、動脈瘤等ノ壓迫ニ基因ス又「ヒステリ」神經衰弱症、貧血等ニ發ス

療法 各種ノ神經症ヲ通ジテ原因療法ヲ主トス水治法、温泉浴、海水浴等ヲ行ヒ兼ネテ神經藥ヲ處スベシ

知覺鈍麻或ハ脱失ニハ電氣療法(積極ヲ外部ニ消極ヲ喉内ニ貼ス)又、ストリキニ一ネノ皮下注射(一回量〇〇〇—一〇〇〇五)或ハ番木髓丁幾ノ内服ヲ稱用ス知覺過敏ニハ禁烟、禁酒轉地ヲ佳トス且ツ臭素、瀉草劑ヲ與ヘ亞片、撒曹等亦用フベシ知覺異常ハ屢々訓戒ニヨリ或ハ暗示ニヨリテ意志ヲ轉換セシムルトキハ快癒スルコトアリ神經痛ニハ一般原因療法ノ他疼痛緩解ノ目的ニ向ツテ規尼涅、安知必林、アスピリン等ヲ與ヘ或ハ温濕療法、温毯布又ハ莫爾比涅注射ヲ行ヒ腫瘍ノ壓迫ニ基因スルモノハ手術的療法ヲ行フベシ又電氣療法(積極ヲ疼痛部ニ消極ヲ頸推ニ貼ス)ヲ應用シテ効アリ

B 運動障害 Motilitätsstörungen.

甲 麻痺 Lähmung (Paralyse).

喉頭筋麻痺即チ聲帶麻痺ハ筋運動ヲ主宰スル神經ノ官能ニ從テ種々ノ形態ニ

於テ現ハル、モノニシテ之ヲ閉鎖(又ハ内轉)麻痺及ビ開張(又ハ外轉)麻痺ニ區別ス又麻痺ニ中樞性及ビ末梢性ノ別アリ

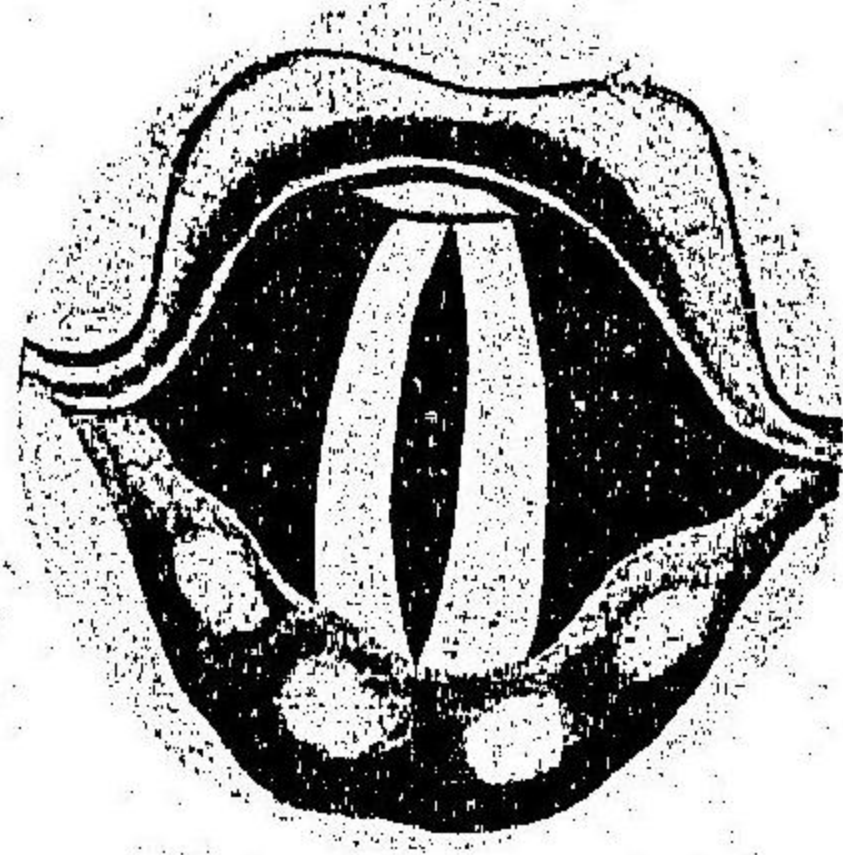
中樞性麻痺 Zentrale Paralyse. ハ腦皮質ノ中樞、延髓及ビ其ノ間ニ於ケル經路ノ障害ニ由リテ發スルモノニシテ最モ多キハ脊髓勞、進行性球麻痺、散在性硬化筋削瘦性側索硬化、脊髓空洞症、腫瘍、溢血、護膜腫等ニヨリテ來ルモノナリ

末梢性麻痺 Periphere Paralyse. ハ喉頭筋全麻痺或ハ運動不全ニシテ屢々遭遇スルモノナリ而シテ全麻痺ハ運動神經ノ器質的疾患ニ起リ不全麻痺ハ主トシテ官能的疾患ニヨルコト多シ例之バ「ヒステリー」聲音過用、衰弱又ハ筋性障害即チ「滲潤腫瘍」等ニ基因ス稀ニハ器質的變化ニヨルコトアリ

内甲狀披裂筋麻痺

P. d. M. thyreo-arythnoidens int.

多クハ兩側ニシテ發聲疲勞、聲音微弱、嘎聲若シクハ



第三百一十一圖 内甲狀披裂筋麻痺

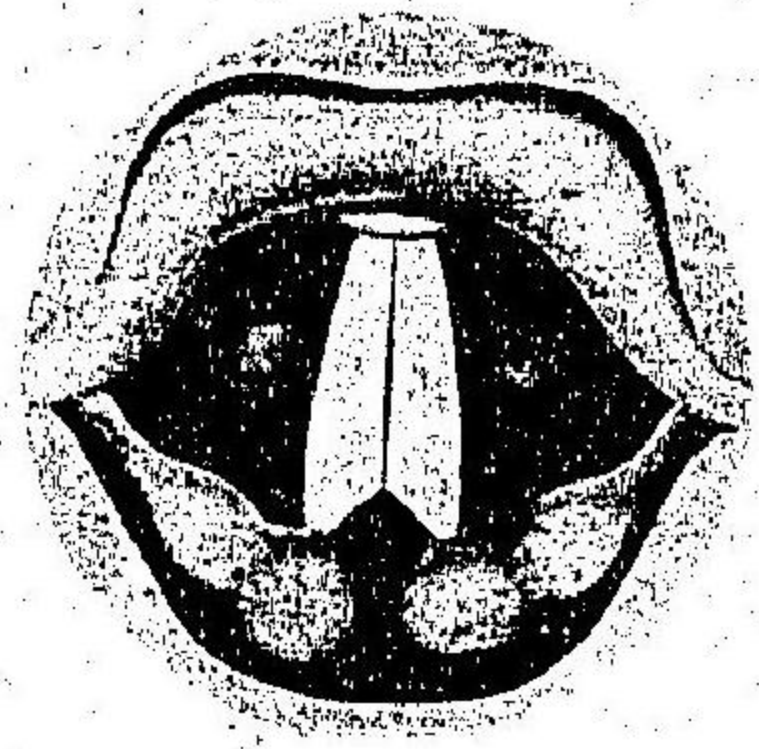
失聲(反廻神經麻痺ノ分症)ヲ來シ聲帶弛緩シ且ツ狹長トナル兩側麻痺ノトキハ發聲ニ際シ聲門ハ紡錘形或ハ長卵圓形ヲ呈ス(第百三十一圖)

橫披裂筋麻痺 P. d. M. arythenoidens transversus.

常ニ兩側ニ來リ多クハ不全麻痺ナリ患者ハ嘔聲聲音微弱發聲疲勞ヲ覺エ「ヒステリー」ノ合併セルモノハ失聲ヲ來スコトアリ發聲ニ際シ披裂軟骨部接近セザルカ爲メニ聲門ハ後端ニ於テ三角形ノ間隙ヲ殘ス(第百三十二圖)又屢々内甲狀披裂筋麻痺ト併發スルコトアリ然ルトキハ(第百三十三圖)ノ如キ状態ヲ示ス

圖二十三第百第

痺麻筋裂披橫



側環狀披裂筋麻痺 P. d. M. crico-arythenoidens.

稀有ニシテ聲帶ハ發聲時側壁ニ固定シ聲帶突起ハ内轉スルコト能ハズ聲音嘶

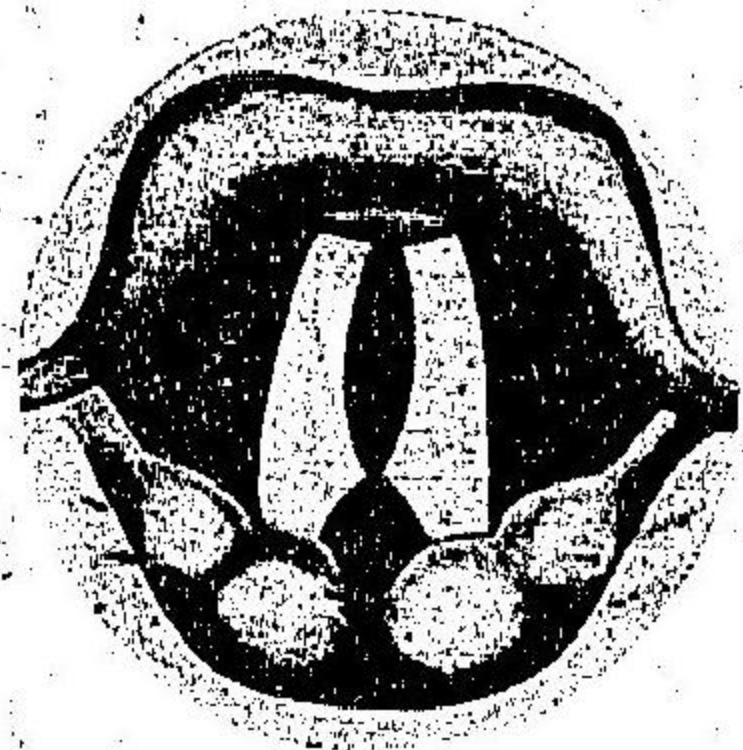
啞ハ高度ニシテ失聲ニ陥ル

内轉麻痺 Adductoren Paralyse.

聲帶内轉麻痺ノ最モ多キ原因ハ「ヒステリー」ニシテ其他貧血重症、聲音過用筋浸潤及新生物等ニ依リテ來ルコトアリ
「ヒステリー」性麻痺ハ通常突然高度ノ失聲ヲ來スモノニシテ聲帶ハ發聲スルモ吸息位置ニ固定セラル然レドモ咳嗽ハ有響性ニシテ又哄笑號泣等

圖三十三第百第

及筋裂披狀甲内痺麻筋裂披橫



ニハ聲アリ

後環狀披裂筋麻痺又後筋麻痺 Paralyse d. M.

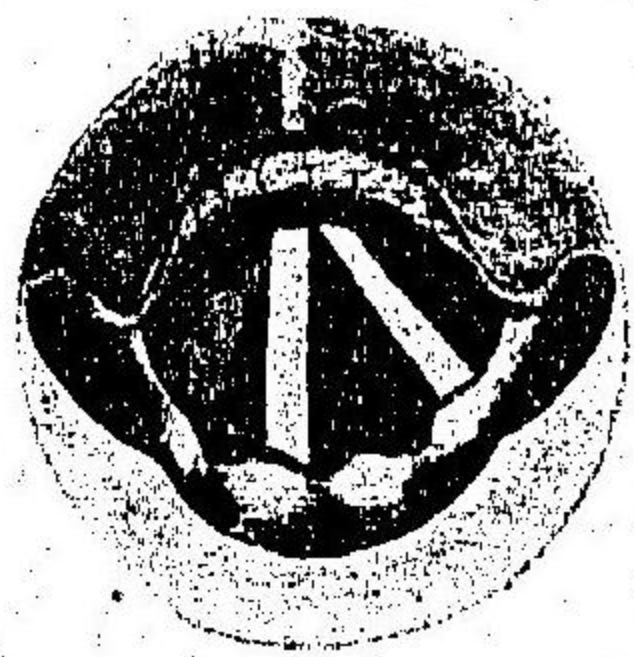
crico-arythenoidens posticus s. Posticuslähmung.

外轉麻痺ト稱ス通常全麻痺ニシテ兩側ニ來ルコト多ク片側ニハ少ナシ

原因 反廻喉頭神經ノ進行性器質的變化ニヨリテ現ハル即チ後環狀披裂筋ヲ主宰スル神經纖維ノ侵襲セラル、ニ由ル又脊髓勞延髓疾患ノ初徴タルコトアリ其他急性喉頭炎インフルエンザ咽頭異物ヨリ來ル

症候 輕度ノ片側後筋麻痺ハ聲音異常ヲ起サルヲ常トス又兩側麻痺モ時トシテハ變化セザルモノナリ稍高度ノ麻痺ニアリテハ呼吸困難ヲ來スモノニシテ吸息的喘鳴ヲ有シ呼氣ハ靜穩ナルヲ特異トス高度ノ麻痺ニ在リテハ氣管切開術又ハ插管術ヲ行ハザレバ窒息死スルモノナリ

第三百四十四圖
右後筋麻痺
(深呼吸時)



喉頭鏡所見 聲帶ハ正中線ニ停止シ發聲及ビ呼吸ニ際シ毫モ移動セザルモノナリ此ノ不動位置ニアルハ一ハ開張筋ノ拮抗筋即チ聲門閉鎖筋ノ收縮ニヨルモノニシテ若シ開張筋弛緩スルトキハ聲帶ハ僅カニ中線ヲ離ル(後筋不全麻痺)

片側麻痺ニ在リテハ深呼吸ノ際聲門ハ著明ノ三角形ヲ形成シ兩側麻痺ニ在リテハ極メテ狭キ裂隙ヲ生ジ吸息時ニ最モ狭ク呼息時ニ最モ廣キヲ特徴トス

豫後 原因病ニ關ス兩側高度ノ麻痺ハ危險ニシテ屢々窒息ニヨリテ斃ル、コトアリ

療法 原因病ニ向ツテ治療ヲ加フベク局處療法ハ寸効ナシ又氣管切開術ヲ行ヒ窒息ヲ防クヲ要ス

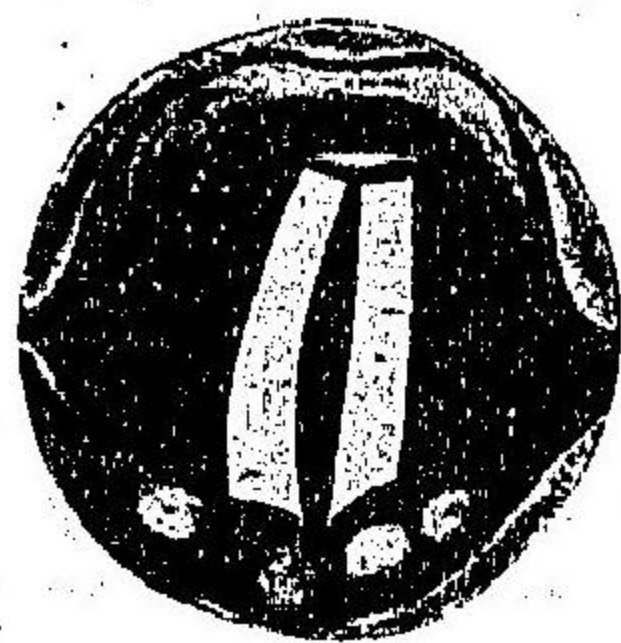
反廻喉頭神經麻痺 Recurrenslähmung.

下喉頭神經一名反廻神經ノ主宰スル總テノ筋族(環狀甲狀筋ヲ除ク)麻痺ニシテ屢々遭遇スルモノナリ殆ント常ニ兩側ニ來リ稀レニ片側ニ來ル而シテ左側ハ右側ニ比スレバ遙カニ多シ是レ左側ハ解剖的位置ノ侵襲セラレ易キト本症ハ動脈瘤ニ由リテ來ルコト多キカ故ナリ

原因 球麻痺、脊髓勞、散在性硬化等ノ中樞性疾病ヨリ來ルモノ、外瘤腫、肉腫、甲狀腺腫若クハ胸部ノ動脈瘤縱隔膜腫瘍、多量ノ肋膜及ビ心囊滲出液縱隔膜腺ノ結核性、梅毒性、及ビ癌腫性腫脹等ニ由リテ發シ其他急性傳染病實扶埤里、室扶私等脚氣ニ來ル稀レニハ毫モ原因ト認ムベキモノナクシテ發スルコトアリ而

シテ男性ハ女性ニ比スレバ遙ニ多シ
症候 主要症候ハ聲音嘶啞ナリ然レドモ片側ノ麻痺ニ在リテハ輕微ナルヲ常トス是レ發聲ノ際健康側聲帶ハ正中線ヲ超越シテ病側聲帶ニ接近補償スルガ爲メナリ時トシテハ管聲(去勢音)ヲ發ス兩側麻痺スルトキハ啞聲高度ニシテ全失聲ニ陥ルヲ常トス且ツ無響性或ハ犬吠性咳嗽ヲ發ス呼吸障害ハ兩側麻痺ニ來ル者ニシテ輕キハ努力後ニ發スルノミナレトモ高度ノモノニアリテハ安靜時ニモ來ルモノナリ
 喉頭鏡所見 麻痺セル聲帶ハ安靜吸氣位ト發聲位ノ中間位ニ停止シ深吸氣及發聲時ニ際シテ毫モ移動セズ所謂屍體位置 *Kadaverstellung* ヲ保ツ其他健康側ノ披裂軟骨ハ麻痺側ノ軟骨ヲ後方ニ壓シ麻痺セル聲帶ハ狹ク且ツ少シク低位ニアリ且ツ麻痺側聲帶ハ健康側ニ比スレバ短縮セルノ觀ヲ呈ス是レ披裂軟骨ノ前方ニ轉位スルガ爲メナリ

第三百五十五圖
 右反側神經麻痺
 (發聲時)



稀レニハ病側披裂會厭襞ニ於テ瞬時的微細ノ搖擗ヲ見ルコトアリ

豫後 原因病ノ治癒ニヨリテ恢復スルコトアリト雖モ稀ナリ
療法 原因療法ヲ主トシ沃度劑及ビ亞砒酸ノ内服或ハ電氣療法ヲ應用セラ

乙 痙攣 *Krampf (Hyperkinesen).*

呼吸的聲門痙攣 *Respiratorischer Stimmritzen-Krampf.*

突然發作スル聲門ノ痙攣性狹窄ニシテ成人ニアリテハ稀レニシテ其最も多キハ比斯的里又癲癇脊髓勞及ビ其他ノ原因ニヨリテ來リ半歲乃至二歲ノ小兒ニハ屢々發現スル疾病ナリ女兒ニ比スレバ男兒ニ多ク春冬兩季ニ來ルコト多シ殊ニ營養不良消化器障害アルモノハ罹リ易シ

症候 發作性ニ襲來スル急劇ノ喉頭狹窄症候總論喉頭狹窄ヲ見ヨラ呈シ通例數秒間持續ス小兒ニ在リテハ數回發作スルコトアリ發作間ハ格魯布等ニ於ケルガ如キ咳嗽及ビ嘶啞ヲ發セザルヲ常トス極メテ稀レニハ發作久シク

持續シテ狭窄症狀劇烈トナリ窒息スルモノアリ

療法

發作時ハ冷器法又ハ礪砂ノ吸入等ヲ施シテ神經ヲ刺戟スベシ又指ヲ以テ舌根部ヲ壓定シ舌ヲ前挺セシムルヲ要ス時トシテハ依的兒クロホルムノ數滴ヲ吸入セシメ窒息ニ向ツテハ挿管術又ハ氣管切開術ヲ行フ其他發作ヲ防グニハ臭素劑ヲ内服セシメ且ツ原因病ノ療法ヲ施スベシ

發聲的聲門痙攣

Phonischer Stimmritzenkrampf.

本症ハ發聲時聲門ノ痙攣性閉鎖ヲ來スモノニシテ多クハ比斯的里ニ來リ其他散在性硬化舞踏病神經衰弱聲音過用等ニ因リテ發シ或ハ鼻病等ヨリ反射的ニ來ルコトアリ

症候

發聲セントスルヤ俄カニ聲門痙攣性閉鎖ヲ來シ發聲ヲ成スコト能ハザルモノニシテ患者ハ屢々顔面潮紅シ若シクハ紫藍色ヲ呈ス而シテ發聲ヲ中止スレバ呼吸ハ直チニ自在トナルモノナリ

療法

原病治療ヲ行ヒ其他電氣療法水治法強壯劑及ビ鎮痙劑(臭素、纈草等)ヲ

内服セシム

第六編

氣管ノ疾病

Krankheiten der

Trachea.

急性氣管炎

Tracheitis acuta.

本病ハ他ノ疾病ニ併發シ或ハ隱匿セラレ注意ヲ惹キ起サザルガ故ニ稀ナルガ如クナレドモ實際ニ於テハ比較的多キ疾病ナリ

原因

急性喉頭炎ニ同ジ多クハ喉頭ヨリ蔓延シ或ハ急性傳染病ニ因テ發ス

症候

氣管ニ沿ヒ或ハ胸骨下ノ不快ナル搔抓灼熱及ビ乾燥ノ感咳嗽ヲ來シ時トシテ輕微ノ熱ヲ發シ且ツ異和ヲ覺ユル事アリ初メハ濃厚粘稠ノ喀痰ニシテ漸次鮮明ナル液樣或ハ粘液膿樣痰トナリ終ニ消失シテ治癒ス

喉頭鏡検査ニヨリテ氣管上部ヲ窺ヒ得ベキモノハ粘膜潮紅腫脹ヲ見ル

豫後

良ナルヲ常トス時トシテハ慢性ニ移行シ不攝生ナルトキハ荏苒治癒

セザルモノアリ

療法 急性喉頭炎ニ於ケルガ如シ先ツ安靜ニ就群セシムルカ或ハ少クトモ温度ヲ一定セル適當ノ濕氣ヲ含メル室内ニ在ラシメ亞爾加里性藥劑ノ吸入、發汗法ヲ行フトキハ頓挫セシムルヲ得ベシ其他對症療法トシテ鎮咳劑、祛痰劑、解熱劑等臨機應用スベシ

慢性氣管炎 Tracheitis chronica.

多クハ急性症ヨリ移行ス其他亦潰瘍狹窄、異物、新生物或ハ心臟病、氣腫等ヨリ來ルモノニシテ急性症ヨリモ屢々遭遇スル疾病ナリ

症候 輕度ノ咳嗽アリ咯痰量不定ニシテ粘稠ナル團塊時トシテハ「ザゴ」米狀ヲ呈ス通常自覺症ヲ缺如ス稀レニ胸骨柄部ノ下ニ於テ疼痛又ハ壓迫感ヲ覺フ他覺所見ハ粘膜ノ充血腫脹ナリ

療法 原因病ニ注意シテ適當ノ治療ヲ加ヒ吸入及ビ祛痰劑又沃度劑ノ内服ヲ行フベシ且ツ喫煙ヲ禁ジ塵埃ヲ避ケ海濱ニ轉地スル時ハ奏効アリ

氣管及氣管枝ノ異物 Fremdkörper in

Der Tracheen u. den Bronchien.

稍ヤ大ナル異物モ聲門ヲ通過シテ氣管若シクハ氣管枝内ニ達スルコトアリ而シテ氣管枝異物ハ右側ニ多シ是レ右側氣管枝ノ大ニシテ且ツ左側ヨリ鉛直ニ近キト肺ノ吸引力モ右側ニ於テ強盛ナルニ基因ス異物ノ種類ハ喉頭異物ト同一ニシテ就中果實核、釘、小笛ハ最モ多キモノナリ

症候 異物ノ大小、部位并ニ移動性ト否トニ由リテ一様ナラズ而シテ通常喉頭異物ヨリハ輕易ナリ異物組織内ニ固定セラル、モノハ持續性呼吸困難ヲ起シ移動性ノモノハ聲門ニ達シタルトキ窒息狀發作ヲ來シ他部ニ轉ズルヤ直チニ輕快ス而シテ患者ハ雜音ヲ聽取シ或ハ異物ノ上下運動ヲ自覺スルコトアリ其他時トシテハ咳嗽、疼痛、血痰等ヲ來ス深部ノ氣管枝異物ハ氣管枝炎、氣管枝擴張、肺膿瘍等ヲ誘發スルコトアリ

診斷 既往症ト他覺的検査ニヨラザルベカラズ即チ直達氣管及氣管枝鏡檢

査又ハレントゲン光線ヲ應用スベシ
豫後 氣管異物ハ氣管枝異物ニ比スレバ良好ナリ突然窒息スルコトアリ或ハ種々ノ續發症例之バ大血管穿孔肺炎、肋膜炎、膿胸、肺膿瘍、肺壞疽等ニヨリテ危険ヲ來スコト多シ

療法

初期ニ吐劑ヲ與ヘ或ハ咳嗽ヲ誘起セシメテ之ヲ咯出セシムベシ圓形滑澤ノ小異物ハ是レニヨリテ効ヲ奏スルコトアリ久シク滯留シ或ハ前方法ニヨリテ奏効セザルトキハ直達検査法ニ於ケルガ如ク氣管及氣管枝鏡ヲ挿入シ管口ヨリ種々ノ形狀ヲ有スル鉤又ハ鉗子等ヲ送テ異物ヲ摘出ス此ノ方法ハ決シテ容易ニ非ズ術者ノ巧妙ナル手腕ト忍耐ニ俟タザルベカラズ須カラク摸型等ニ就テ充分ノ練習ヲナスベキモノトス

氣管梅毒 Syphilis der Luftröhre.

氣管梅毒ハ略ボ喉頭梅毒ニ同ジト雖モ稀有ナリ多クハ第三期梅毒症ニシテ第二期症ハ稀ナリ

症候

多クハ不明ナリ動モスレバ之ヲ缺如ス然レドモ亦顯著ノ症候ヲ呈スルコトアリゲルハルト氏ハ之ヲ三期ニ區別セリ

第一期(刺衝期)ハ氣管加答兒ノ症狀ヲ呈シ咳嗽、癢痒感、膿性咯痰時トシテハ血性咯痰アリ

第二期(狹窄期)ハ持続性ニシテ呼吸困難ヲ來シ聲音微弱ナリ患者ハ頭首ヲ胸部ニ向ツテ屈曲シ或ハ却テ後方ニ屈シテ強直トナル而シテ吸氣ハ高調ニシテ笛聲ヲ聽取ス漸次呼吸困難増進シ遂ニ

第三期(窒息期)ニ移行ス窒息發作ハ常ニ強烈ニシテ鬼籍ニ上ルモノ稀レナラズ他覺的所見ハ部位及ビ時期ニ從テ一樣ナラズ氣管側壁ノ肥厚、穹窿、缺損、潰瘍、痕狹窄等ヲ呈シ又軟骨ノ露出スルコトアリ

診斷

ハ既往症他部ノ梅毒症狀等ニ注意スベシ喉頭鏡ニヨリテ検査シ難キ深部ニ於ケル病變ハ直達鏡検査ニ據ラザルベカラズ其他氣管ヲ外部ヨリ壓迫スベキ諸症ト判定シ難キモノニハ試驗的沃度加里内服ヲ行フベシ

豫後

不良但シ早期診斷ニヨリテ早ク治癒ヲ加フレバ治癒スルコトアリ

療法 全身驅梅毒療法并ニ腐蝕法ヲ施シ狭窄アルモノハ器械的擴張療法ヲ行ヒ窒息ノ危険アルトキハ氣管切開術ヲ行フ

氣管結核 Tuberculose der Luftröhre.

肺及ビ咽喉ノ結核ニ合併スルモノニシテ稀有ノモノニ非ズ大凡全結核症ノ四%ナリト云フ

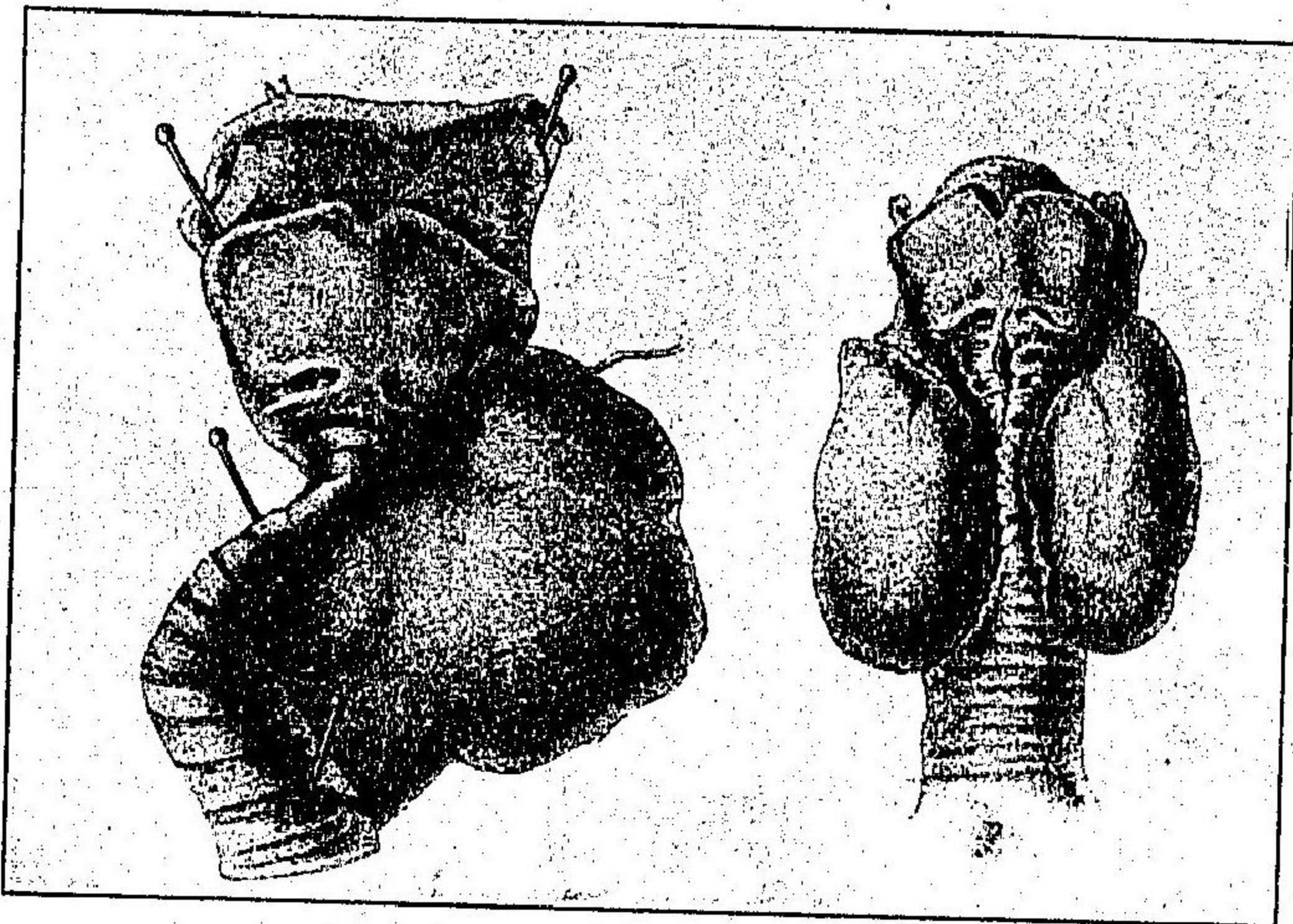
氣管ノ結核性潰瘍ハ多クハ限局性浸潤ノ破壞ニヨリテ生ズルモノニシテ又喉頭ニ於ケルガ如ク軟骨膜炎ヲ發ス

療法 多クハ特別良策ノ施スベキナシ喉頭及肺結核ノ治療ト同一方法ヲ行フニ過ギズ

氣管ノ新生物 Neubildungen der Luftröhre.

氣管ノ新生物ハ稀有ニ屬ス最モ多キハ肉芽增殖症ナリ潰瘍治癒後或ハ氣管カニューレノ摩擦其他纖維腫、乳嘴腫、軟骨腫、骨腫、腺腫、脂肪腫等ヲ發ス

第三百五十五圖 壓迫性氣管狭窄症



悪性腫瘍ハ肉腫及ビ癌腫ニシテ稀有ナリ

氣管狭窄症 Verengungen der Luftröhre.

原因 ヲ分チテ内狭窄及ビ外狭窄トス而シテ外狭窄ハ内狭窄ニ比スレバ極メテ多シ

A 氣管内狭窄 實扶埤里、膿瘍、梅毒性、狼瘡性、室扶私性浸潤及ビ是等ノ疾病ニ續發セル潰瘍及ビ瘢痕ニ因リテ來ル其他異物「カニューレ」ノ刺戟ニヨル肉芽增殖等ナリ

B 氣管外狭窄 外部ヨリ壓迫

セラ、ル、ニヨリテ發スルモノニシテ壓迫狹窄トモ云フ即チ甲狀腺肥大、淋巴腺腫瘍、食道及近隣ノ癌腫、咽頭後壁膿瘍、食道異物、動脈瘤、結核性、及梅毒性腫脹、胸腺肥大、脊柱彎曲等ニ基因スルモノ多シ

症候

呼吸困難、狹窄性雜音、胸部壓重及ビ狹隘、談話疲勞等ニシテ異物ニヨルモノハ呼吸困難突發シ其他ノ原因ニ依ルモノハ緩徐ニ來ル

診斷

喉頭鏡検査ニヨリテ觀察シ得ベキ部位ニ狹窄アルトキハ其ノ變化ヲ見ルコトアレドモ通常困難ナリ深部ニ於ケルモノハ直達氣管鏡検査ヲ行フベシ其他胸部ノ理學的検査ハ必要不可缺モノナリ

豫後

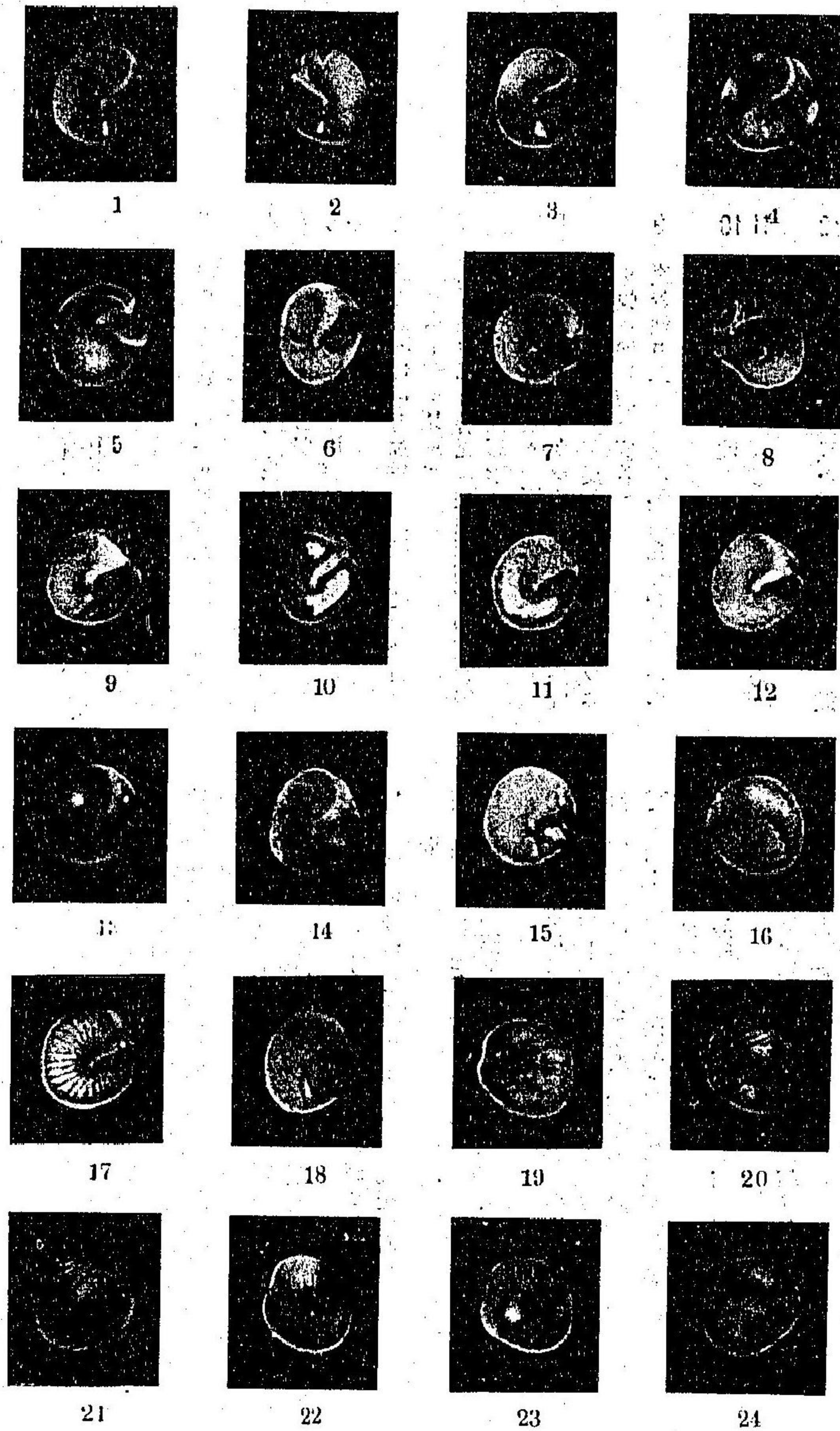
疑ハシ

療法

原因療法ハ緊要ナリ或ハ機ニ臨ミ外科的療法ヲ行フベシ

鼻咽氣管病學終

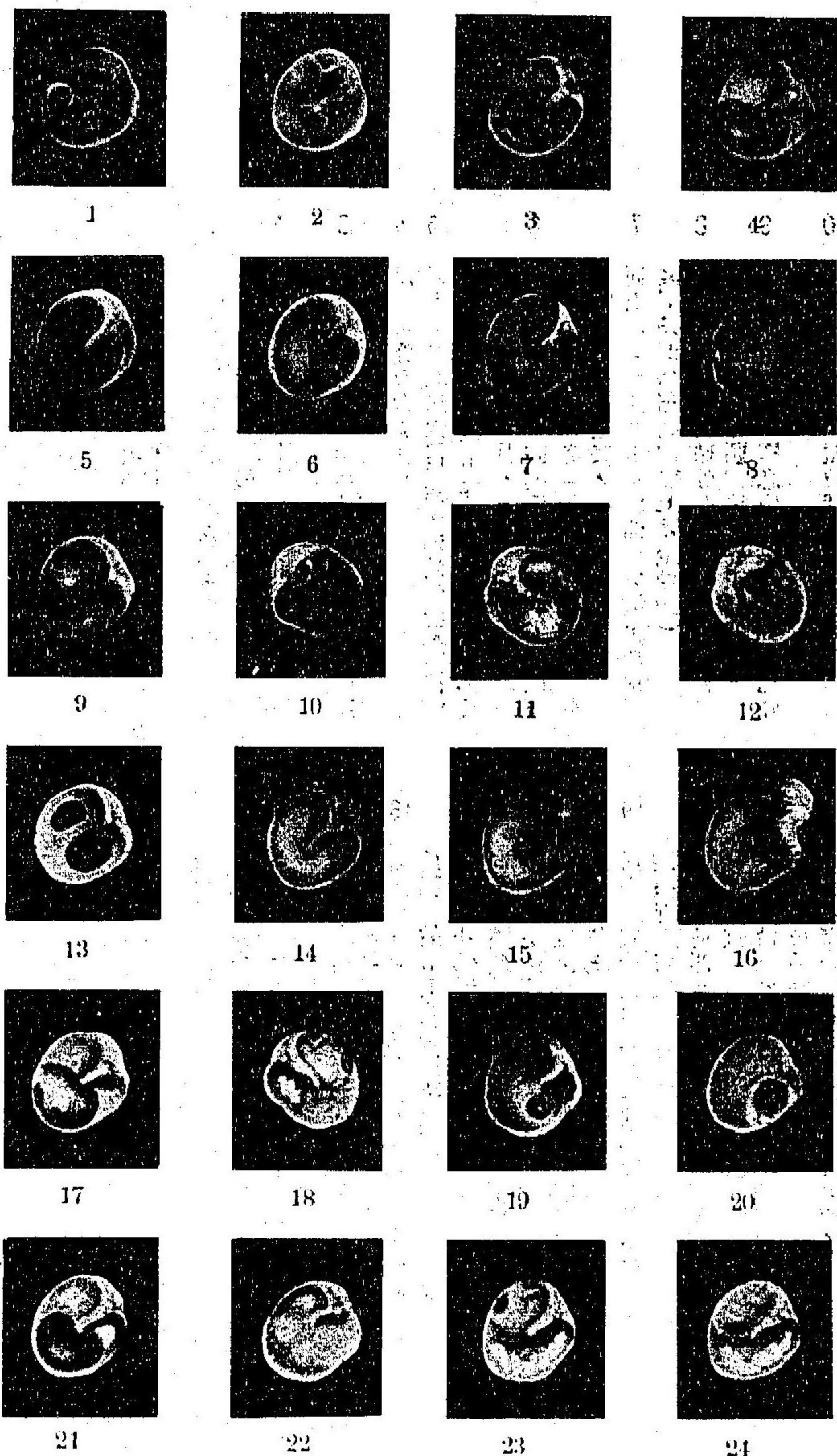
IV



附圖 IV (ブリュニール氏ニ據ル)

- | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------------------------------|--------------------------|---------------------------|--|------------------------------------|--|-----------------------------|---------------------------|--------------------|--|----------------------------|-------------------------|
| 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 馬蹄骨鎖道(鼓膜、錘柄ノ後部透明、鼓沈著) | 慢性中耳加答兒(鼓膜潤濁、蹄鐵狀石灰沈著) | 同上(鼓膜石灰沈著) | 癒着性中耳加答兒(鼓膜乳輪潤濁、後半部半月狀潤濁) | 同上、シユラフネル氏膜癒着(鼓膜高度ノ牽縮、把柄光體反射歪斜、シユラフネル膜ハ錘骨頭ト癒着) | 膜及前下界ニ於ケル點狀光體反射) | 癒着性中耳加答兒(錘膜牽縮、短突起變數變隆出、錘柄短縮ノ觀、シユラフネル膜及前下界ニ於ケル點狀光體反射) | 急性漿液性中耳加答兒(錘骨把柄下部ニ於テ水平線ヲ見ル) | 慢性漿液性中耳加答兒(勝ノ前部ニ於テ水平線ヲ見ル) | 骨瘤腫(後壁二個、前壁一個) | 右正規鼓膜(頸靜脈膨脹部透見) | 左正規鼓膜(砧骨馬蹄骨關節、鼓室洞、正圓窓ヲ透見ス) | 右正規鼓膜 |
| 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | |
| 同上(鼓膜潮紅把柄上部短突起ヲ見ル、前下界大瘻竇大穿孔) | 同上(鼓膜潮紅把柄上部短突起ヲ見ル、前下界大瘻竇大穿孔) | 同上(後上界乳嚙狀膨隆、尖端ニ膿汁ノ滲漏ヲ見ル) | 同上(後上界乳嚙狀膨隆、把柄被覆) | 把柄不可見、鼓膜潮紅、溢血アリ) | 急性化膿性中耳炎(後上界水胞狀膨隆、把柄不可見、鼓膜潮紅、溢血アリ) | 同上(鼓膜潮紅、溢血、短突起前上界ニ突隆) | 同上(把柄不明、上皮剝離) | 急性單純中耳炎(放線狀血管及把柄血管充血) | 同上(下界ノ穿孔、孔緣出血鼓膜充血) | 慢性顆粒性鼓膜炎(潤濁、鼓膜下部小顆粒)鼓膜損傷(前上界ノ穿孔、孔緣及周圍出血) | 室岬部充血) | 急性鼓膜炎(鼓膜發赤、後部水泡、前下界小出血) |

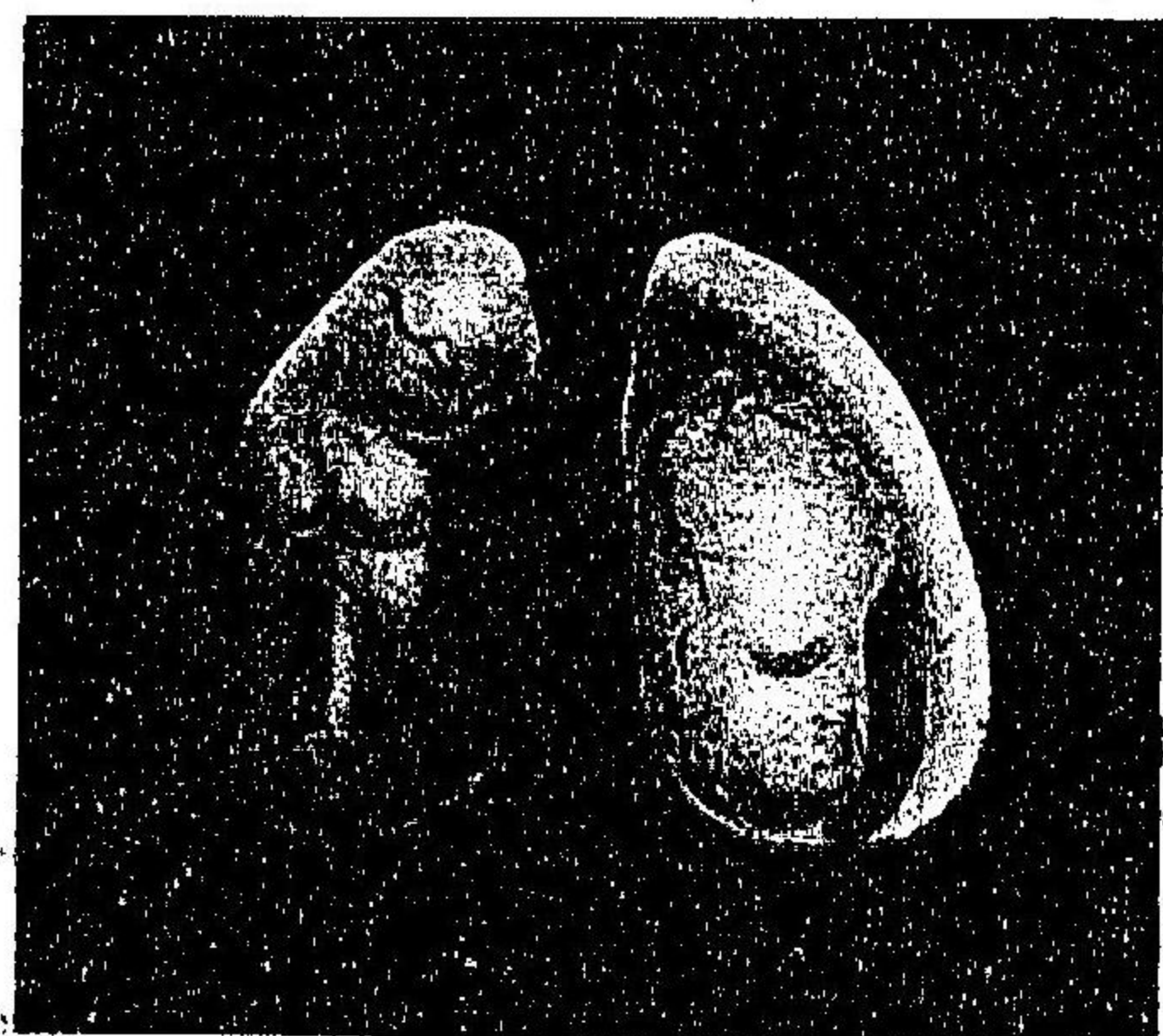
V



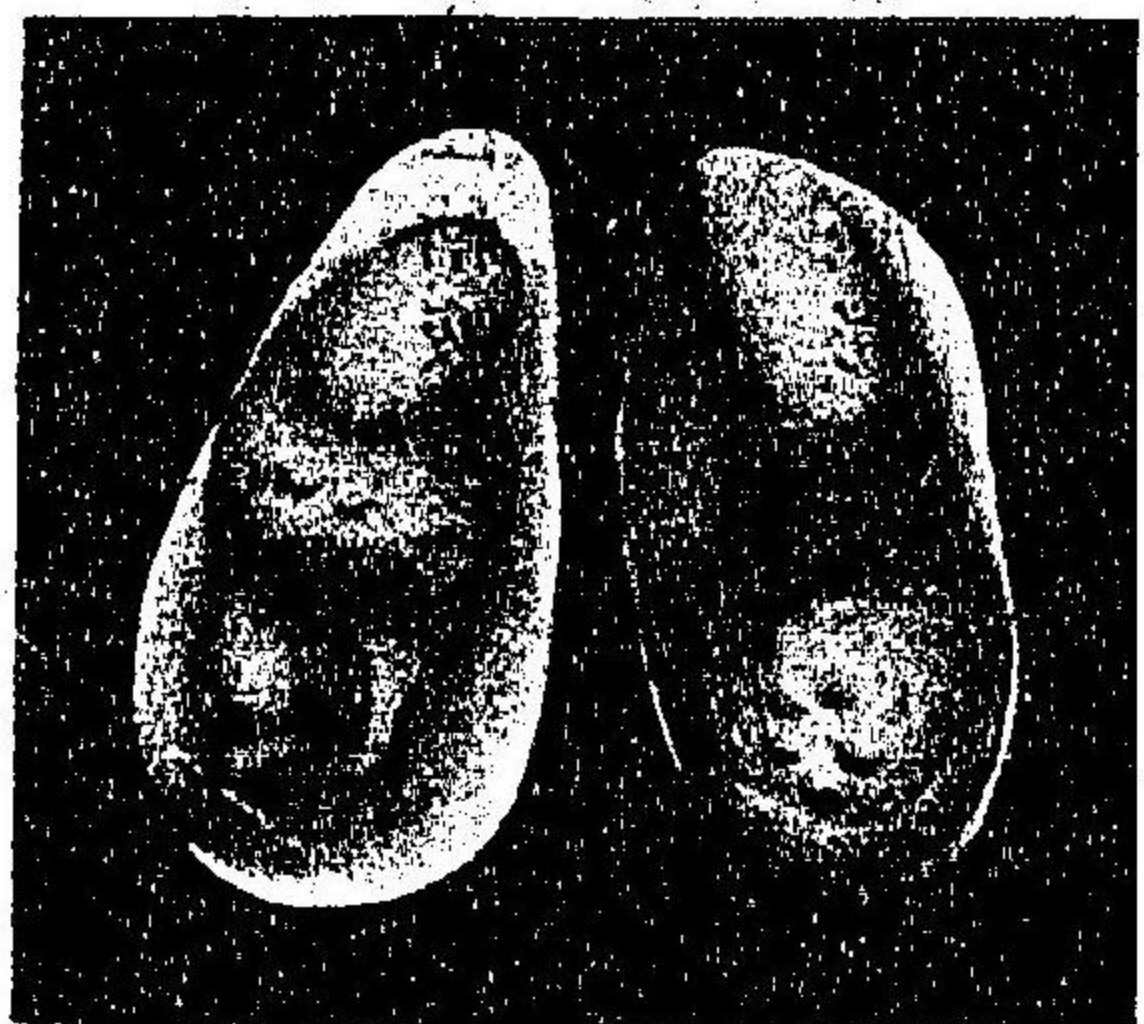
附圖 V (シリニルイ氏ニ據ル)

- 1 慢性化膿性中耳炎(鼓膜洞開、萎縮、臍後部ノ圓形穿孔、鼓室粘膜炎) 臍後部ノ圓形穿孔、鼓室粘膜炎
- 2 同上(把柄下部ノ小腎形穿孔、後上界ニ粘骨膜骨關節) 同上(把柄下部ノ小腎形穿孔、後上界ニ粘骨膜骨關節)
- 3 同上、再燃(腎形穿孔、孔縁肉芽、鼓室粘膜炎) 同上、再燃(腎形穿孔、孔縁肉芽、鼓室粘膜炎)
- 4 同上(腎形大穿孔) 同上(腎形大穿孔)
- 5 同上、環形穿孔(周縁マテ鼓膜脱失、把柄穿孔部ニ突出、後上界ニ粘骨膜骨關節、後下界ニ卵圓窓ヲ見ル) 同上、環形穿孔(周縁マテ鼓膜脱失、把柄穿孔部ニ突出、後上界ニ粘骨膜骨關節、後下界ニ卵圓窓ヲ見ル)
- 6 同上(周縁マテ鼓膜脱失、把柄尖端鼓室脚ニ擴着、後上界ニ骨頭ヲ見ル、粘骨膜脚缺如、鼓室底ノ肉芽) 同上(周縁マテ鼓膜脱失、把柄尖端鼓室脚ニ擴着、後上界ニ骨頭ヲ見ル、粘骨膜脚缺如、鼓室底ノ肉芽)
- 7 同上(シユラフネル膜部マテ鼓膜缺損、後下界正圓窓高、後上界骨頭) 同上(シユラフネル膜部マテ鼓膜缺損、後下界正圓窓高、後上界骨頭)
- 8 同上(鼓膜粘骨全部脱失、鼓室底ノ肉芽後上界骨頭、後下界正圓窓高) 同上(鼓膜粘骨全部脱失、鼓室底ノ肉芽後上界骨頭、後下界正圓窓高)
- 9 同上(ボリイフ總糸肉、鼓膜缺如、細骨殘部) 同上(ボリイフ總糸肉、鼓膜缺如、細骨殘部)
- 10 同上(鼓室粘膜炎) 同上(鼓室粘膜炎)
- 11 同上、コレステアトム(鼓膜上縁マテ缺損、骨柄端鼓室脚ニ擴着鼓室粘膜炎) 同上、コレステアトム(鼓膜上縁マテ缺損、骨柄端鼓室脚ニ擴着鼓室粘膜炎)
- 12 同上(細骨粘骨全脱失、鼓室粘膜炎) 同上(細骨粘骨全脱失、鼓室粘膜炎)
- 13 顆粒、上皮新生) 同上(重覆穿孔) 同上(重覆穿孔)
- 14 同上(シユラフネル氏膜穿孔、粘骨カリエス) 同上(シユラフネル氏膜穿孔、粘骨カリエス)
- 15 同上(シユラフネル氏膜穿孔(心内)短突起ノ上部ニボリイフ、鼓室上腔骨部缺損) 同上(シユラフネル氏膜穿孔(心内)短突起ノ上部ニボリイフ、鼓室上腔骨部缺損)
- 16 同上、コレステアトム(シユラフネル氏膜、鼓室上腔骨缺損、コレステアトム塊外嚢道ニ突出) 同上、コレステアトム(シユラフネル氏膜、鼓室上腔骨缺損、コレステアトム塊外嚢道ニ突出)
- 17 同上、遺殘(鏡形穿孔、後下界正圓窓高、鼓室後部ニ血管アリ) 同上、遺殘(鏡形穿孔、後下界正圓窓高、鼓室後部ニ血管アリ)
- 18 同上(後上界穿孔、細骨粘骨關節、正圓窓高、前上界石灰沈着) 同上(後上界穿孔、細骨粘骨關節、正圓窓高、前上界石灰沈着)
- 19 同上、癒着性癒痕(鼓膜牽縮、前下界ノ鼓室脚ト癒着癒着) 同上、癒着性癒痕(鼓膜牽縮、前下界ノ鼓室脚ト癒着癒着)
- 20 同上(前部ニ於テ鼓室ニ癒着セル陷没シタル癒痕) 同上(前部ニ於テ鼓室ニ癒着セル陷没シタル癒痕)
- 21 同上(前上界後上界ノ石灰沈着、細柄下部ニ腎形鼻動性癒痕) 同上(前上界後上界ノ石灰沈着、細柄下部ニ腎形鼻動性癒痕)
- 22 同上(癒着性癒痕(細骨粘骨ニ癒着)) 同上(癒着性癒痕(細骨粘骨ニ癒着))
- 23 同上(半月形石灰沈着、後上界癒着粘骨骨關節) 同上(半月形石灰沈着、後上界癒着粘骨骨關節)
- 24 ボリツネル氏法應用後ノ十五圖ノ癒痕、癒痕ハ癒着性癒痕、癒着消失) ボリツネル氏法應用後ノ十五圖ノ癒痕、癒痕ハ癒着性癒痕、癒着消失)

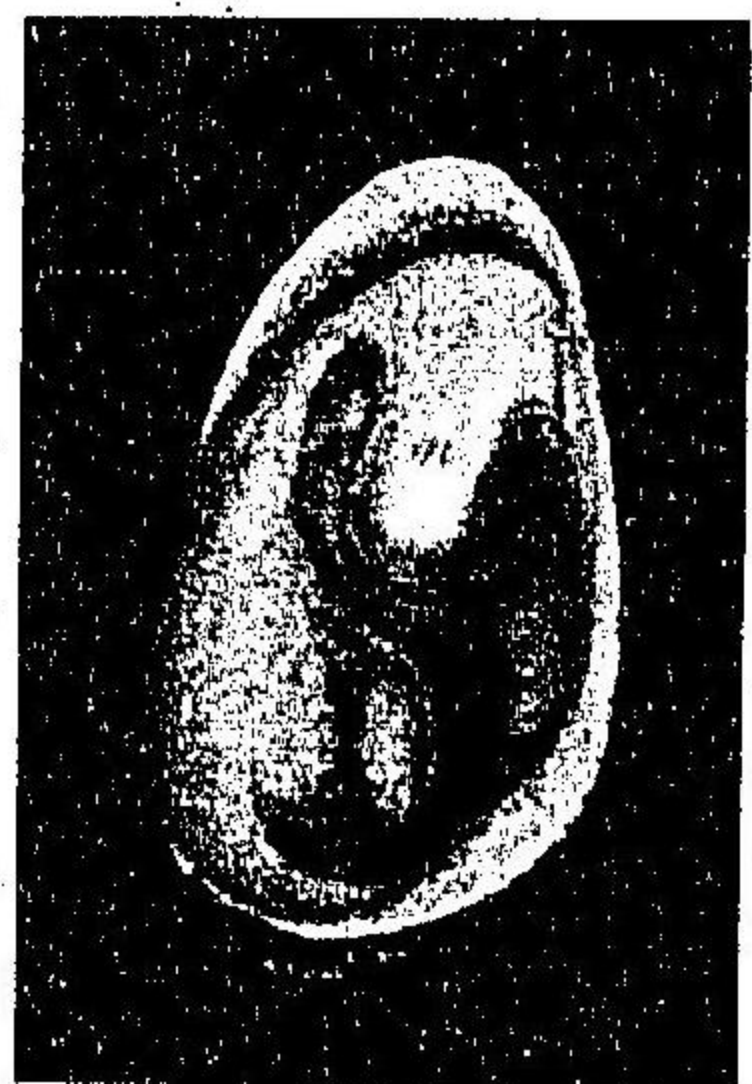
VI



1 前 鼻 道



2



3



4

附圖 VI

(グリューンワルド氏ニ據ル)

1. 右多量性粘液茸
左大ナル單發性粘液茸
2. 右中甲介前端肥厚膨大
左下甲介前段肥厚膨大
3. 右中甲介著シク外側壁ヨリ隔離シ其ノ間ニ前額竇排泄
口ヲ見ル
4. 左鼻道擴大シ甲介骨小ニシテ蝶竇口ヲ見ル

明治四十二年十一月廿五日印刷
明治四十二年十二月一日發行

著作
所有

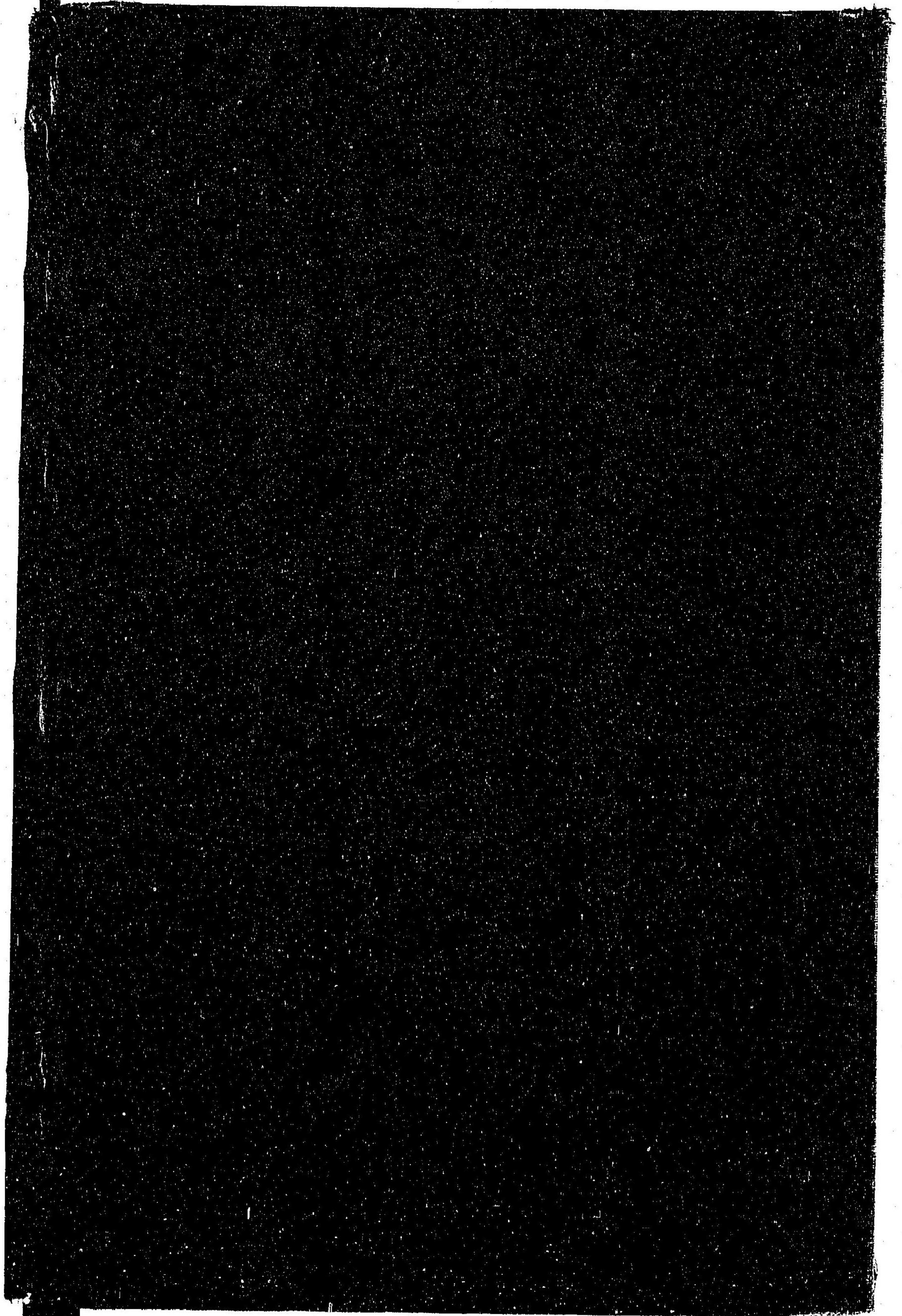
著者兼發行所
印刷者
印刷所
三色刷版

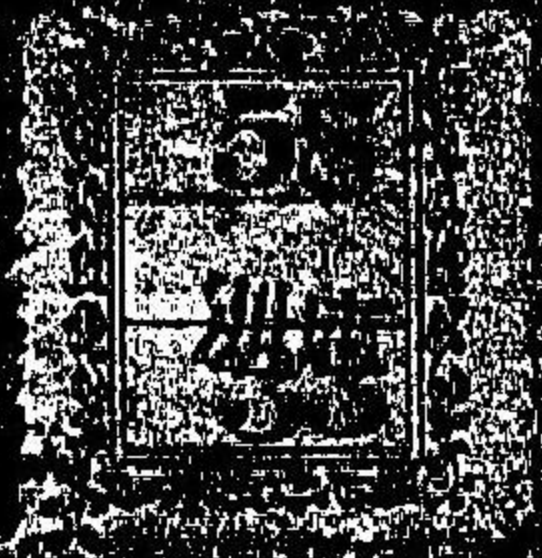
正價金貳圓八拾錢

東京市麴町區內町幸一丁目五番地
佐藤敏夫
東京市神田區美土代二丁目一番地
島連太郎
東京市神田區美土代二丁目一番地
三秀
東京市麴町區有樂町壹丁目五番地
田中製版所

發兌
元
東京市本郷區本富士町二番地
東京市芝區愛宕町三丁目一番地
千葉縣千葉町市場
明文館書店
明文館支店
明文館支店







060153-000-9

58-33

耳鼻咽喉气管病学

佐藤 敏夫/著

M42

CBK-0032



